

仙台市文化財調査報告書第392集

仙台平野の遺跡群21

—平成22年度発掘調査報告書—

六反田遺跡第6～8次調査・鳥居塚古墳第3～5次調査
南小泉遺跡第64次調査・大野田官衙遺跡第3～6次調査

2011年3月

仙台市教育委員会

仙台市文化財調査報告書第392集

仙台平野の遺跡群21

—平成22年度発掘調査報告書—

六反田遺跡第6～8次調査・鳥居塚古墳第3～5次調査
南小泉遺跡第64次調査・大野田官衙遺跡第3～6次調査

2011年3月

仙台市教育委員会

序 文

仙台市は「杜の都・仙台」という愛称で広く親しまれ、四季折々の豊かな自然にあふれています。仙台の風景は、私たち市民の誇りであると同時に、将来へ守るべき大切な財産でもあります。

本報告書には、各種開発に先立ち、平成22年度に発掘調査を実施した六反田遺跡、鳥居塚古墳、南小泉遺跡、大野田官衙遺跡の調査結果を収録しています。

今回の調査においても、先人の生活文化を知る上で貴重な歴史資料が発見されました。それらは、かつてそこで生活を営んでいた人々の様子を、私たちに生き生きと語りかけてくれます。先人達の遺した貴重な文化遺産を保護し、保存活用を図りつつ未来へ継承していくことは、現代に生きる私たちの大切な仕事であります。地域が育んだ文化を語る上で、歴史や文化資源がその根底を成しているからです。

本報告書が、学術研究のみならず学校教育や生涯学習などのあらゆる場面で活用され、皆様の埋蔵文化財へのより深い関心とご理解の一助となれば幸いです。

最後になりましたが、今回の調査や報告書の作成に際して、ご協力いただきました多くの方々に心より深く感謝申し上げます、序とさせていただきます。

平成23年3月

仙台市教育委員会
教育長 青 沼 一 民

例 言

1. 本書は、平成22年度国庫補助事業による個人専用住宅他補助対象事業に伴う「仙台平野の遺跡群」の発掘調査報告書である。
2. 本書は、仙台市教育委員会が実施した個人住宅建築に伴う六反田遺跡第6～8次、鳥居塚古墳第3～5次、南小泉遺跡第64次、大野田官衙遺跡第3～6次の各発掘調査報告を合本にした報告書である。
3. 本書の編集・執筆は、仙台市教育委員会文化財課調査調整係の担当職員の協議のもとに、廣瀬真理子が行った。
4. 遺物実測やトレス等の整理作業は、吉野信と向田文化財整理収蔵室の作業員が行った。
5. 本書に関わる遺物・写真・実測図面等の資料は、仙台市教育委員会が保管している。
6. 本書で使用した土色は、「新版標準土色帖」（小山・竹原：1999）に準拠した。
7. 本書中で使用した地形図は国土地理院発行の1：25,000『仙台市東南部、西南部』の一部を使用している。
8. 座標値は、日本測地系第X系による。
9. 断面図の標高値は、海拔高度を示している。
10. 遺構は種別ごとに次の略号を用いた。

S B：掘立柱建物跡	S D：溝跡	S I：竪穴住居跡
S K：土坑	P：ピット	S X：性格不明遺構
11. 遺物の登録は、以下の分類と略号を用いた。

A：縄文土器	B：弥生土器	C：土師器（非ロクロ）	D：土師器（ロクロ）		
E：須恵器	F：丸瓦	G：平瓦	I：陶器	J：磁器	K：石器・石製品
L：木製品	N：金属製品	P：土製品	S：埴輪		
12. 土師器実測図における網かけは、黒色処理されていることを示している。
13. 遺物観察表のカッコ内の法量のうち、器高は残存値を、また口径および底径は復元値を示している。
14. 六反田遺跡、鳥居塚古墳、大野田官衙遺跡については、現在「富沢駅周辺土地区画整理事業」に伴う発掘調査がすすんでおり、その調査成果と対応させ、基本層の層位名を付した。
15. 本文中の「灰白色火山灰」（庄子・山田1980）は、これまでの仙台市域の調査報告や東北地方中北部の研究から、「十和田a火山灰（To-a）」と考えられている。降下年代は現在、西暦915年と推定されており、本書もこれに従う。

庄子貞雄・山田一郎1980「宮城県北部に分布する灰白色火山灰について」『多賀城－昭和54年度発掘調査概報－』

宮城県多賀城跡調査研究所

仙台市教育委員会2000『沼向遺跡第1～3次発掘調査』仙台市文化財調査報告書第241集

小口雅史2003「古代北東北の広域テフラをめぐる諸問題—十和田aと白頭山（長白頭）を中心に—」『日本律令制の展開』吉川弘文館

目 次

序文

例言

目次

I 調査計画と実績

1	調査体制	1
2	調査計画	1
3	調査実績	1

II 六反田遺跡第6次発掘調査報告

1	調査要項	2
2	調査に至る経過と調査方法	2
3	遺跡の位置と環境	2
4	基本層序	4
5	発見遺構と出土遺物	4
6	まとめ	6

III 六反田遺跡第7次発掘調査報告

1	調査要項	9
2	調査に至る経過と調査方法	9
3	基本層序	9
4	発見遺構と出土遺物	9
5	まとめ	15

IV 六反田遺跡第8次発掘調査報告

1	調査要項	20
2	調査に至る経過と調査方法	20
3	基本層序	20
4	発見遺構と出土遺物	20
5	まとめ	22

V 鳥居塚古墳第3次発掘調査報告

1	調査要項	23
2	調査に至る経過と調査方法	23
3	遺跡の位置と環境	24
4	基本層序	24
5	発見遺構と出土遺物	24
6	まとめ	25

VI 鳥居塚古墳第4次発掘調査報告

1 調査要項	27
2 調査に至る経過と調査方法	27
3 基本層序	27
4 発見遺構と出土遺物	27
5 まとめ	27

VII 鳥居塚古墳第5次発掘調査報告

1 調査要項	31
2 調査に至る経過と調査方法	31
3 基本層序	31
4 発見遺構と出土遺物	31
5 まとめ	34
6 第3～5次調査の成果	34

VIII 南小泉遺跡第64次発掘調査報告

1 調査要項	36
2 調査に至る経過と調査方法	36
3 遺跡の位置と環境	37
4 基本層序	37
5 発見遺構と出土遺物	39
6 まとめ	39

IX 大野田官衙遺跡第3～6次発掘調査報告

1 調査要項	43
2 調査に至る経過と調査方法	43
3 遺跡の位置と環境	43
4 基本層序	43
5 発見遺構と出土遺物	44
6 まとめ	47

I 調査計画と実績

1 調査体制

調査主体 仙台市教育委員会
 調査担当 文化財課 課長 吉岡恭平
 調査調整係 主幹兼係長 佐藤甲二
 主査 荒井 格
 主事 小泉博明 廣瀬真理子 及川謙作 猪狩俊哉 大久保弥生
 文化財教諭 吉野 信 鈴木健弘

2 調査計画

主に個人専用住宅の建築に伴う発掘調査費用の補助を目的とし、個人専用住宅他補助対象事業費として、総経費7,686千円、国庫補助金額3,715千円の予算で計画した。発掘調査の実施については、以下の実施計画を立案した。

調査対象地	調査予定地点数	調査予定期間	調査原因
仙台市内各区内	39地点	平成22年4月～平成23年3月	個人住宅建築

第1表 調査計画

3 調査実績

今年度の調査実績は、第2表に示したとおりである。調査原因は、全て個人専用住宅の建築である。なお、第2表中で調査回数がついている遺跡については、本書にその成果を掲載している。

NO.	遺跡名	対象面積	調査面積	調査期間	備考	届出等NO.
1	富沢館跡	69.5㎡	24㎡	4月20日～4月26日		H21 180-30
2	今市遺跡	71.56㎡	30㎡	5月7日		H21 152-215
3	伊古田B遺跡	78.24㎡	30㎡	5月10日～5月13日		H22 152-218
4	山口遺跡	69.5㎡	22.5㎡	6月21日～6月22日		H22 114-11
5	鳥居塚古墳	74.61㎡	22㎡	6月7日～6月9日	3次	H22 114-15
6	砂押Ⅱ遺跡	67.37㎡	18㎡	7月5日		H21 152-167
7	郡山遺跡	55.06㎡	22.4㎡	6月21日～6月23日		H22 114-47
8	六反田遺跡	79.41㎡	34㎡	7月7日～7月14日	7次	H22 114-26
9	六反田遺跡	65.5㎡	21㎡	6月28日～7月2日	6次	H22 114-3
10	高田A遺跡	69.9㎡	22.5㎡	8月2日		H22 114-43
11	南小泉遺跡	54.65㎡	30㎡	7月20日～7月21日		H22 114-55
12	燕沢遺跡	111.00㎡	30㎡	7月20日		H22 114-62
13	鴻ノ巣遺跡	94.50㎡	26.1㎡	8月2日～8月3日		H22 114-74
14	大野田官衙遺跡	69.56㎡	25.5㎡	8月3日～8月4日	3次	H22 114-87
15	南小泉遺跡	85.29㎡	25㎡	8月23日～8月27日		H22 114-86
16	大野田官衙遺跡	120.65㎡	24㎡	8月30日～8月31日	4次	H22 114-63
17	大野田官衙遺跡	79.00㎡	24㎡	8月31日～9月1日	5次	H22 114-108
18	六反田遺跡	47.2㎡	15㎡	9月6日～9月10日	8次	H22 114-61
19	与兵衛沼澤跡	88.95㎡	30㎡	8月30日		H22 114-93
20	鳥居塚古墳	69.224㎡	40㎡	9月6日～9月13日	4次	H22 114-88
21	藤田新田遺跡	86.63㎡	3.6㎡	8月27日		H22 114-46
22	羽山遺跡	15㎡	11.875㎡	9月29日		H22 114-77
23	大野田官衙遺跡	49.2㎡	16.5㎡	9月1日～9月2日	6次	H22 114-113
24	鳥居塚古墳	72.51㎡	42.5㎡	9月13日～9月17日	5次	H22 114-121
25	南小泉遺跡	87.36㎡	25㎡	9月14日～9月22日		H22 114-115
26	南小泉遺跡	83.63㎡	26.1㎡	10月5日～10月6日		H22 114-150
27	沖野城跡	65.50㎡	28.8㎡	11月8日～11月9日		H22 114-157
28	南小泉遺跡	72.50㎡	24㎡	10月19日～10月20日	46次	H22 114-159
29	沖野城跡	77.42㎡	31㎡	11月15日～11月18日		H22 114-166
30	南小泉遺跡	47.2㎡	9.6㎡	11月22日		H22 114-164
31	山田団地東南遺跡	83.95㎡	26㎡	12月9日		H22 114-198
32	欠ノ上Ⅱ遺跡	57.96㎡	27㎡	12月14日～12月15日		H22 114-219
33	本町遺跡	59.62㎡	10㎡	12月20日～12月21日		H22 114-226
34	沖野城跡	75.07㎡	21㎡	1月17日		H22 114-243
35	大野田官衙遺跡	71.97㎡	21㎡	2月1日～2月3日		H22 114-250
36	鴻ノ巣遺跡	71.42㎡	24㎡	2月7日～2月10日		H22 114-248
37	今泉遺跡	116.34㎡	30㎡	2月21日～2月22日	9次※	H22 114-245
38	鴻ノ巣遺跡	123.76㎡	43.8㎡	3月8日～3月9日		H22 114-267
39	南小泉遺跡	82.04㎡	20㎡	3月3日～3月4日		H22 114-290

※今泉遺跡9次は、年度末の調査となったため、調査実績表への掲載にとどめ、来年度に報告を実施することとする。

第2表 調査実績

Ⅱ 六反田遺跡第6次発掘調査報告

1 調査要項

遺跡名	六反田遺跡(宮城県遺跡登録番号01189)
調査地点	仙台市太白区大野田字六反田27-6の一部、27-7の一部
調査期間	平成22年6月28日～7月2日
調査対象面積	65.5㎡
調査面積	21㎡
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育生涯学習部文化財課調査調整係
担当職員	主事 廣瀬真理子 文化財教諭 鈴木健弘

2 調査に至る経過と調査方法

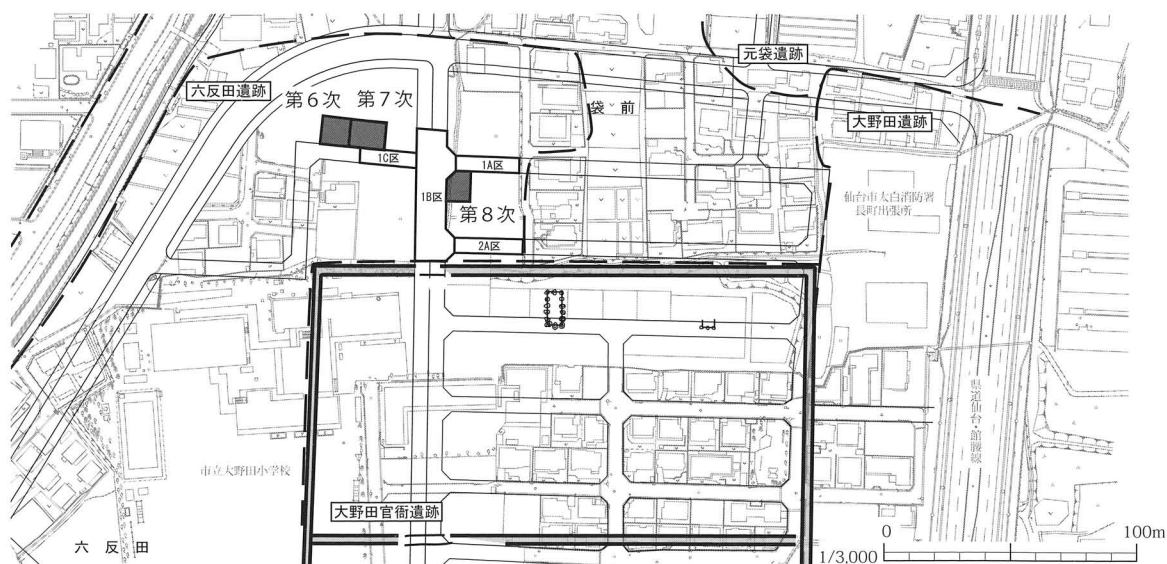
今回の調査は、平成22年4月6日付で、申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して、文化財保護法第93条（H22教生文第114-3号で回答）に基づき実施した。調査は平成22年6月28日に着手し、遺構が検出されたため、引き続き本発掘調査を実施した。住宅建築範囲内に、南北3.0m×東西7.0mの調査区を設定した。重機により盛土およびⅠ層を除去後、人力によりⅣ層を掘下げ、Ⅴ層上面で遺構検出作業を行い、竪穴住居跡1軒、溝跡6条、ピット2基を検出した。なお、本調査区では六反田遺跡周辺に堆積する、Ⅱ層（黒褐色粘土質シルト）およびⅢ層（黄褐色粘土質シルト）は確認されなかった。

適宜、平面図・断面図（S=1/20）を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。

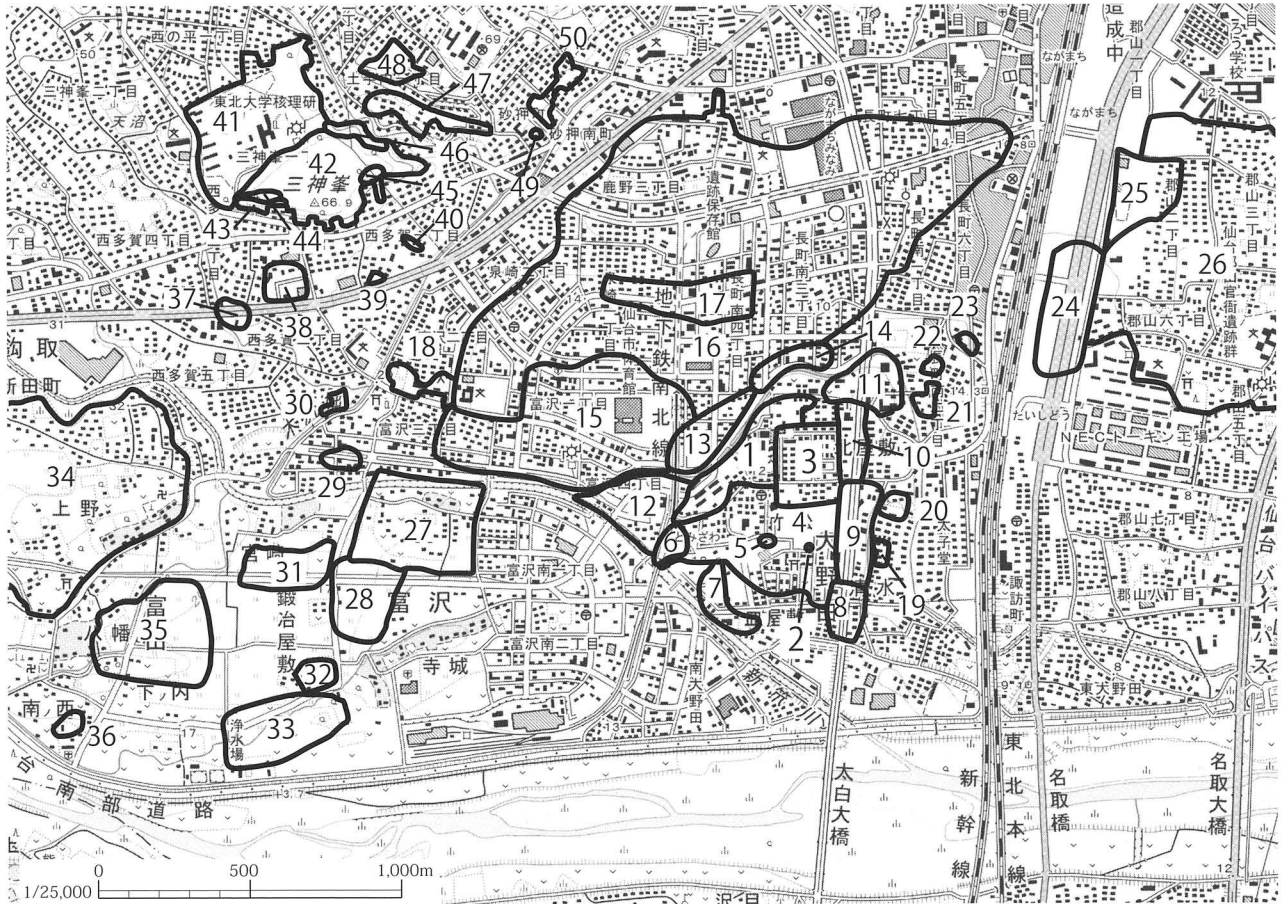
3 遺跡の位置と環境

六反田遺跡は、仙台市の南東部、仙台市営地下鉄富沢駅から北東約100mの地点に位置する。名取川左岸の自然堤防上に立地し、北側を筑川が曲流している。遺跡は、旧筑川の右岸に沿った東西約550m、南北約100mの範囲におよび、標高は約11mである。

六反田遺跡は、縄文時代から近世にかけての複合遺跡として知られている。平成6年度以降、「富沢駅周辺土地区画整理事業」に伴う調査が継続的に実施されているが、その中で特に、奈良・平安時代の遺構、遺物が多く発見されている。竪穴住居跡や掘立柱建物跡が多数確認され、また、畑の耕作に関連すると考えられる小溝状遺構群が大規模



第1図 調査地点の位置



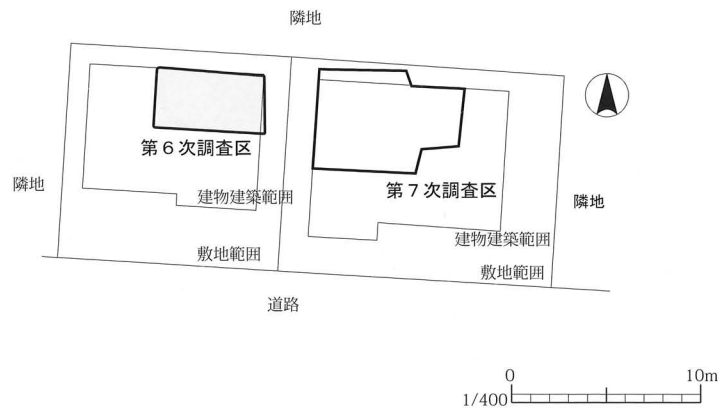
番号	遺跡名	種別	立地	時代	番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	六反田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～古代、近世	24	長町駅東遺跡	集落跡	自然堤防・後背湿地	弥生～奈良
2	鳥居塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳中期	25	西台畑遺跡	包含地 甕棺墓	自然堤防	縄文～古墳
3	大野田官衙遺跡	官衙跡	自然堤防	古代	26	郡山遺跡	官衙跡・包含地・ 寺院跡	自然堤防・ 後背湿地	縄文～奈良(初期)
4	大野田古墳群	円墳	自然堤防	古墳	27	富沢館跡	城館跡	自然堤防	中世
5	春日社古墳	円墳	自然堤防	古墳中期	28	鍛冶屋敷前遺跡	集落跡	自然堤防	平安
6	伊古田遺跡	集落跡	自然堤防	縄文後、古墳～古代	29	堀ノ内遺跡	散布地	自然堤防	古墳～古代
7	伊古田B遺跡	散布地	自然堤防	古墳～古代	30	富沢上ノ台遺跡	散布地	自然堤防	縄文、平安
8	皿屋敷遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防	古代～中世	31	鍛冶屋敷A遺跡	集落跡	自然堤防	縄文、古代
9	王ノ壇遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防	縄文～中世	32	鍛冶屋敷B遺跡	散布地	自然堤防	縄文、古代
10	大野田遺跡	祭祀・集落跡	自然堤防	縄文～古代、近世	33	六本松遺跡	集落跡	自然堤防	古代
11	元袋遺跡	集落跡・水田跡	自然堤防	弥生、古代～近世	34	上野遺跡	集落跡	段丘	縄文、古代
12	下ノ内遺跡	集落跡	自然堤防	縄文～奈良	35	南ノ東遺跡	散布地	自然堤防	弥生、平安
13	下ノ内浦遺跡	集落跡・水田跡	自然堤防	縄文～中世	36	富田南西遺跡	散布地	自然堤防	古代
14	袋東遺跡	散布地	自然堤防	古墳～古代	37	西台寮跡	寮跡	丘陵麓	古代
15	山口遺跡	集落跡・水田跡	自然堤防・ 後背湿地	縄文～中世	38	原遺跡	散布地	丘陵麓	弥生～古墳、平安
16	富沢遺跡	包含地・水田跡	後背湿地	後期旧石器～近世	39	原東遺跡	散布地	丘陵麓	古墳～古代
17	泉崎浦遺跡	集落跡・水田跡	自然堤防・ 後背湿地	縄文～古墳、平安、 近世	40	裏町東遺跡	散布地	丘陵麓	平安
18	富沢清水遺跡	散布地	自然堤防	古代	41	芦ノ口遺跡	集落跡	丘陵	縄文～弥生、平安
19	長町清水遺跡	散布地	自然堤防	古代	42	三神峯遺跡	集落跡	集落跡	縄文、平安
20	北屋敷遺跡	散布地	自然堤防	古代	43	富沢寮跡	寮跡	丘陵南斜面	古墳～古代
21	新田遺跡	散布地	自然堤防	古代	44	三神峯古墳群	円墳	丘陵	縄文、平安
22	長町南遺跡	散布地	自然堤防	古代	45	金山寮跡	寮跡	丘陵南斜面	古墳中
23	長町六丁目遺跡	散布地	自然堤防	古代	46	土手内横穴墓群A地点	横穴墓	丘陵斜面	古墳末
					47	土手内横穴墓群B地点	横穴墓	丘陵斜面	古墳末
					48	土手内遺跡	集落跡	丘陵	縄文～古代
					49	砂押古墳	円墳	丘陵麓	古墳
					50	砂押屋敷遺跡	散布地	丘陵麓	古代

第2図 遺跡の位置と周辺の遺跡

に展開することなどが明らかになっている。さらに、本遺跡と大野田古墳群、袋前遺跡にまたがる形で、方形に巡る溝跡に囲まれ、規則的に配置された大型の掘立柱建物跡が6棟発見されている。これらは古代官衙に関連する遺構とされ、平成21年7月に「大野田官衙遺跡」として新たに登録されている。

4 基本層序

- I 層：暗オリーブ灰色粘土質シルト(2.5GY3/1)。
盛土直下の旧水田耕作土である。厚さ約10～30cmである。
- IVa層：オリーブ黒色粘土質シルト (7.5Y2/2)。
厚さ10～18cmである。
- IVb層：オリーブ黒色粘土質シルト (7.5Y2/2)。
黒褐色の粘土質シルトの粒を少量含む。
厚さ8～10cmである。遺構検出面である。
- V 層：黒褐色粘土質シルト (10YR3/2)。



第3図 調査区配置図

5 発見遺構と出土遺物

竪穴住居跡1軒、溝跡6条、ピット2基を検出した。

今回の調査で検出した遺構は、すべてV層上面で検出したが、壁断面の観察により、IVb層上面からの掘り込みであることを確認した。

1) 竪穴住居跡

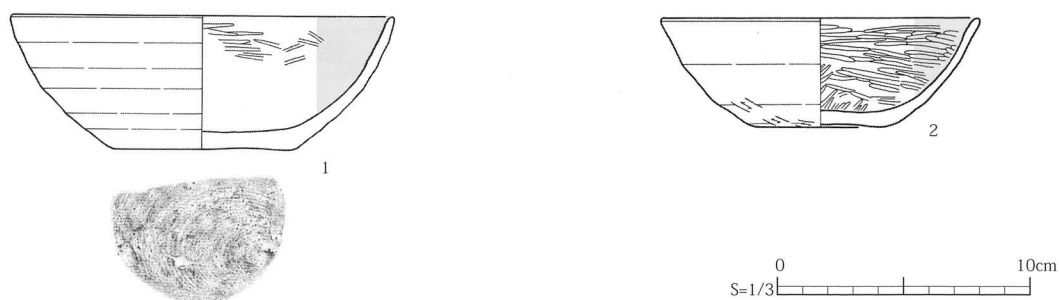
S I 1 竪穴住居跡

調査区北東隅で検出した。そのほとんどが北側の調査対象地外へ延びる。小溝状遺構群1を構成するSD3溝跡およびSD4溝跡と重複関係があり、いずれよりも新しい。

検出規模は、1.4m以上(東西)×0.9m以上(南北)である。平面形は、隅丸方形と推測される。堆積土は、2層に分層され、いずれも自然堆積土と考えられる。床面は、ほぼ平坦である。基本層VI層を主体とする黒褐色粘土質シルトを入れ、床としているが、調査区北壁断面の観察によると、一部、オリーブ黒色の粘土質シルトで貼床としたと考えられる。検出面から床面までの深さは40cm程度で、壁は床面からほぼ垂直に立ち上がる。掘り込み面からの深さは55cm程度である。

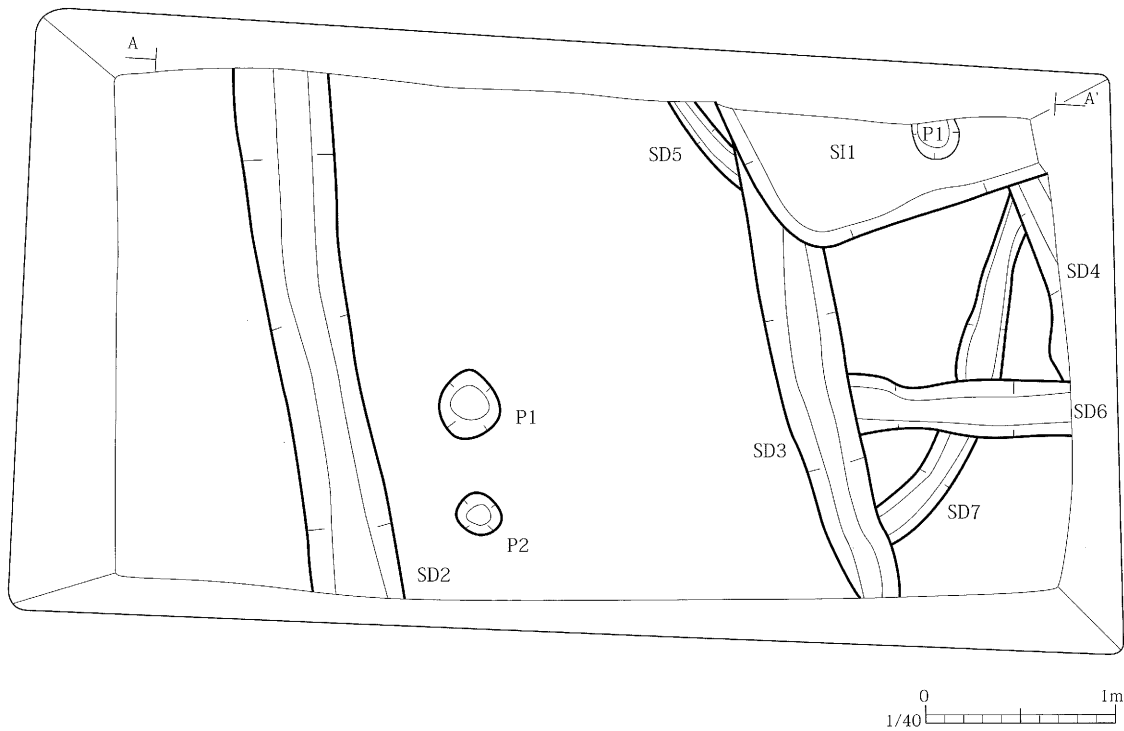
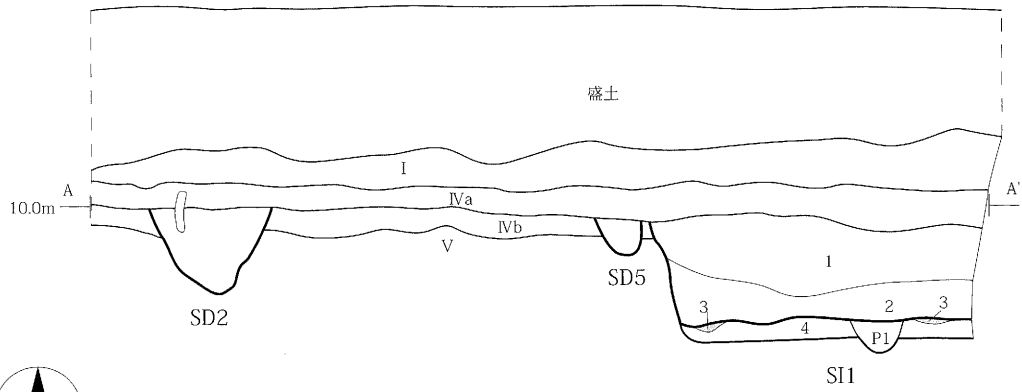
床面からピットを1基検出したが、支柱穴は確認できなかった。

遺物は、住居内堆積土1層およびピット内堆積土から出土している。住居内堆積土からは図示した土師器坏2点



図中番号	登録番号	遺構名	出土層位	種別	器種	法量(cm)			特徴・備考	写真 図版
						器高	口径	底径		
1	D-1	SI1	1	土師器	坏	5.3	(15.2)	(7.0)	内面:ヘラミガキ→黒色処理 外面:ロクロナデ 底部:回転糸切り	2-1
2	D-2	SI1	1	土師器	坏	4.35	(12.6)	5.2	内面:ヘラミガキ→黒色処理 外面:ロクロナデ→手持ちヘラケズリ 底部:回転糸切り→手持ちヘラケズリ	2-2

第4図 S I 1 竪穴住居跡 出土遺物



層位・遺構	土色・土質	しまり	粘性	混入物等	備考
I	2.5GY3/1 オリーブ灰色粘土質シルト	ややあり	ややあり	均質	旧水田層
IVa	7.5Y2/2 オリーブ黒色粘土質シルト	ややあり	ややあり		
IVb	7.5Y2/2 オリーブ黒色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粒を少量含む	
V	10Y3/2 オリーブ黒色粘土質シルト	ややあり	ややあり		
SI1	1 5Y2/2 オリーブ黒色粘土質シルト	ややあり	ややあり	炭化物粒～ブロックを多く含む	住居内堆積
	2 5Y2/2 オリーブ黒色粘土質シルト	ややあり	ややあり	炭化物粒をごく少量含む	
	3 5Y2/2 オリーブ黒色粘土質シルト	ややあり	ややあり	5Y4/2 灰オリーブ色粘土質シルトのブロックを比較的多く含む	貼床か
	4 2.5Y3/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	5Y3/2 オリーブ黒色粘土質シルトの粒を若干含む	掘り方埋土
	P1 7.5Y3/1 オリーブ黒色粘土質シルト	あまりなし	あり		
SD2	7.5Y2/2 オリーブ黒色粘土質シルト	ややあり	ややあり	7.5Y4/1 灰色粘土質シルトのブロックをやや多く、焼土塊をごく若干、含む	小溝状遺構群
SD3	7.5Y2/2 オリーブ黒色粘土質シルト	ややあり	ややあり	炭化物粒をごく少量、V層粒～ブロックを少量含む	
SD4	7.5Y3/1 オリーブ黒色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粒をやや多く含む	
SD5	10Y2/1 黒色粘土質シルト	ややあり	ややあり	炭化物粒、V層粒をごく少量含む	
SD6	7.5Y2/1 黒色粘土質シルト	ややあり	ややあり		
SD7	7.5Y3/1 オリーブ黒色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粒を非常に多く含む	
P1	5Y3/1 オリーブ黒色粘土	ややあり	強い		
P2	5Y3/1 オリーブ黒色粘土	ややあり	ややあり		

(第4図-1、2)の他、土師器坏・甕片26点、須恵器甕片3点が出土している。土師器は、確認できたものはすべてロクロ調整である。ピット内堆積土からは須恵器甕片1点、土師器甕片1点が出土している。

2) 溝跡

検出した6条の溝跡のうちSD2溝跡、SD3溝跡については、規模や方向などから小溝状遺構群の一部であると考えられる。

小溝状遺構群1

南北方向の遺構群である。SD2溝跡、SD3溝跡からなる。SI1竪穴住居跡、SD5～7溝跡と重複関係があり、SI1竪穴住居跡より古く、SD5～7溝跡より新しい。検出長は約2.5mである。規模は上端幅40～50cm、下端幅15～20cm、深さ25～30cmを測り、断面形はU字形を呈する。堆積土は単層で、オリーブ黒色の粘土質シルトである。遺物はSD2溝跡から須恵器坏片、SD3溝跡から須恵器長頸瓶片が各1点出土している。

SD4溝跡

東西方向の溝跡である。SI1竪穴住居跡、SD6溝跡、SD7溝跡と重複関係があり、SI1竪穴住居跡、SD6溝跡より古く、SD7溝跡より新しい。検出長は約1.1mである。規模は上端幅15cm以上、下端幅約10cm、深さ約7cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、オリーブ黒色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。

SD5溝跡

東西方向の溝跡である。SD3溝跡と重複関係があり、これより古い。検出長は約0.6mである。規模は上端幅20cm以上、下端幅約8cm以上、深さ約18cmを測り、断面形はU字形を呈する。堆積土は単層で、黒色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。

SD6溝跡

東西方向の溝跡である。SD3溝跡、SD4溝跡、SD7溝跡と重複関係があり、SD3溝跡より古く、SD4溝跡、SD7溝跡より新しい。検出長は約1.2mである。規模は上端幅約30cm、下端幅約15cm、深さ約9cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、黒色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。

SD7溝跡

北東一南西方向の溝跡である。SD3溝跡、SD4溝跡、SD6溝跡と重複関係があり、これらより古い。検出長は約1.8mである。規模は上端幅15～25cm、下端幅10～15cm、深さ約7cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、オリーブ黒色の粘土質シルトである。遺物は出土していない。

6 まとめ

今回の調査地点は、六反田遺跡内の北部に位置し、第7次調査区の西、第5次調査1C区の北西にあたる(16頁第6図参照)。

今回の調査では、竪穴住居跡1軒、溝跡6条、ピット2基を検出した。

竪穴住居跡は、床面からの遺物の出土がないため遺構の年代等の詳細は不明であるが、住居内堆積土からロクロ土師器坏が出土していることから、9世紀代には廃絶していたものと考えられる。

溝跡6条のうち2条は、周辺の調査でも検出されている、古代の畑耕作に関わる小溝状遺構群の一部と考えられる。その他4条の溝跡もその可能性があるが、調査区に制約があり、可能性にとどまる。

1 遺構検出状況（南東から）



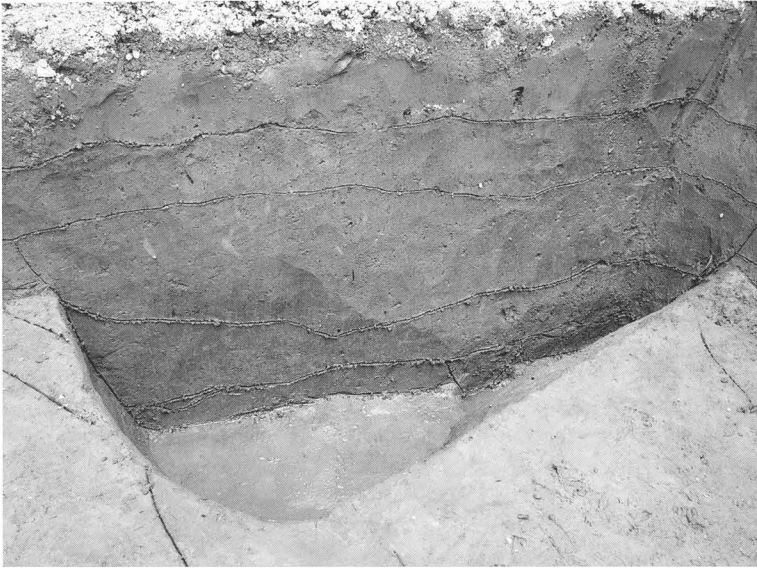
2 S11 竪穴住居跡 床面検出状況（東から）



3 S11 竪穴住居跡 全景（東から）



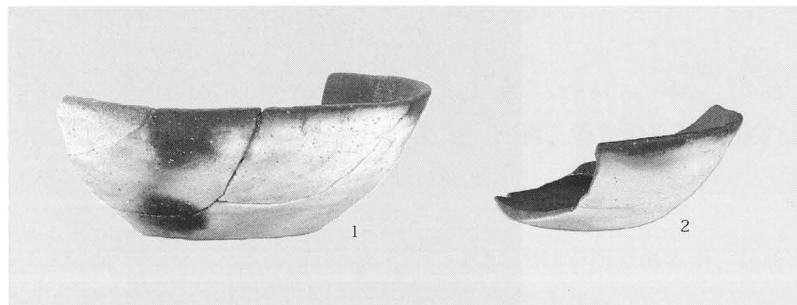
写真図版 1



4 S11 竪穴住居跡 北壁断面（南から）



5 遺構完掘状況（西から）



写真図版 2

Ⅲ 六反田遺跡第7次発掘調査報告

1 調査要項

遺跡名	六反田遺跡（宮城県遺跡登録番号01189）
調査地点	仙台市太白区大野田字六反田27番6、27番7、29番、35番1の各一部
調査期間	平成22年7月7日～14日
調査対象面積	79.41㎡
調査面積	34㎡
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係
担当職員	主事 廣瀬真理子 文化財教諭 鈴木健弘

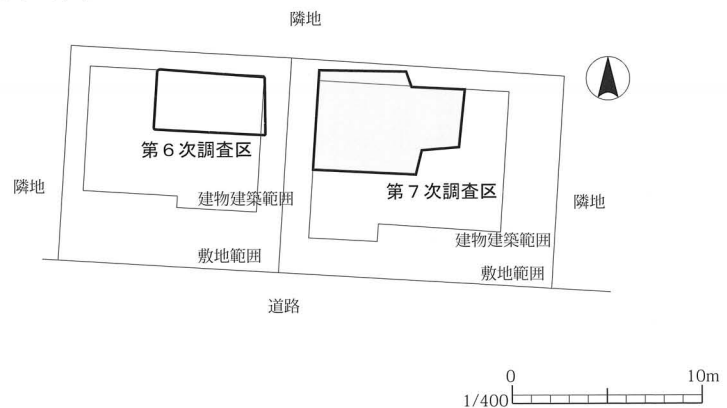
2 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成22年5月10日付で、申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して、文化財保護法第93条（H22教生文第114-26号で回答）に基づき実施した。調査は平成22年7月7日に着手し、遺構が検出されたため、引き続き本発掘調査を実施した。住宅建築範囲内に、南北3.0m×東西8.0mの調査区を設定した。重機により盛土およびⅠ層を除去後、人力によりⅣ層を除去しながら、Ⅴ層上面で遺構検出作業を行った。なお、本調査区では六反田遺跡周辺に堆積する、Ⅱ層（黒褐色粘土質シルト）およびⅢ層（黄褐色粘土質シルト）は確認されなかった。

掘立柱建物跡（SB1）が検出されたことから、その規模を明らかにするため、7月9日に重機を用いて調査区を拡張した。また、申請者の了承を得た上で、一部建物範囲外に調査区を広げた。適宜、平面図および断面図（S=1/20、1/50）を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。

3 基本層序

- Ⅰ層：にぶい黄褐色粘土質シルト（10YR 4/3）。盛土直下の旧水田耕作土である。厚さ10～30cmである。
- Ⅳa層：暗褐色粘土質シルト（10YR 3/4）。厚さ10～20cmである。
- Ⅳb層：黒褐色粘土質シルト（10YR 3/2）。遺構検出面である。厚さ5～15cmである。
- Ⅴ層：褐色粘土質シルト（10YR 4/4）。



第1図 調査区配置図

4 発見遺構と出土遺物

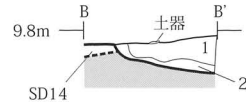
掘立柱建物跡1棟、土坑2基、溝跡13条、ピット15基を検出した。

今回の調査で検出した遺構は、すべてⅤ層上面で検出したが、壁断面の観察により、Ⅳb層上面からの掘り込みであることが確認された。

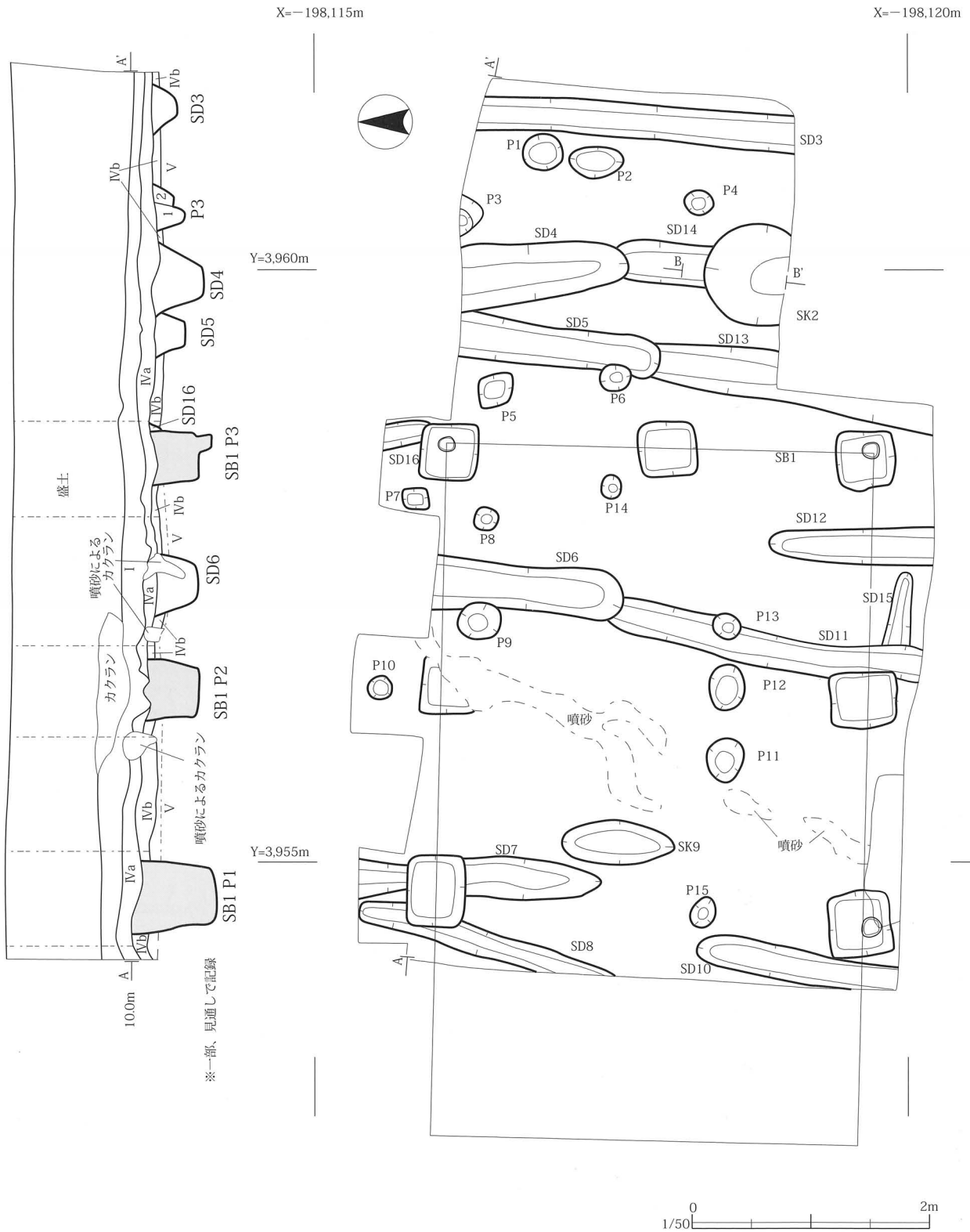
1) 掘立柱建物跡

SB1 掘立柱建物跡

東西棟の掘立柱建物跡である。第6次調査区でこの建物跡にかかわる柱穴が確認されなかったことから、桁行3間、梁行2間の建物跡であると推定される。SD7、8、11、15、16溝跡と重複し、そのいずれよりも新しい。方向は、南側柱列でみると、W-2°-Sである。建物規模は、桁行総長が約3.9m以上（推定5.85m）で、柱抜き穴か



S K 2 土坑 断面図



第2図 平面・断面図

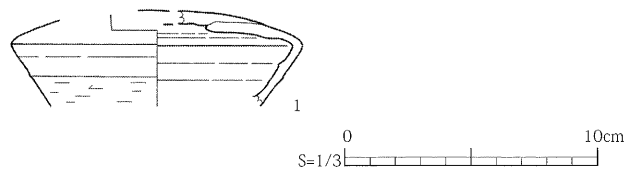
層位・遺構	土色・土質	しまり	粘性	混入物等
I	10YR 4/3 鈍い黄褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	
IVa	10YR 3/4 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	
IVb	10YR 3/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	
V	10YR 4/4 褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	
SK 2	1 10YR 3/4 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	炭化物の粒を比較的多く含む
	2 10YR 3/4 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粒~ブロックを非常に多く含む
SK 9	10YR 3/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粒をごく少量含む
SD 3	10YR 2/3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粒~ブロックをやや多く含む
SD 4	10YR 3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層ブロックを多く含む
SD 5	10YR 3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粒~ブロックを比較的多く含む
SD 6	10YR 3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層ブロックを少量、炭化物粒を若干、含む
SD 7	10YR 3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	灰黄褐色(10YR 5/2)粘土質シルトの粒、V層粒をごく少量含む
SD 8	10YR 3/4 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層ブロックを多量含む
SD10	10YR 3/4 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粒を比較的多く含む
SD11	10YR 3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粒を比較的多く含む
SD12	10YR 3/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粒を多く含む
SD13	10YR 3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	
SD14	10YR 3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粒~ブロックを少量含む
SD15	10YR 3/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層ブロックを極少量、炭化物粒を若干、含む
SD16	10YR 3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粒を比較的多く含む

遺構	土色・土質	しまり	粘性	混入物等	規模			
					径	×	高さ	
P 1	10YR 3/3 褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層ブロックをやや多く、炭化物粒を少量、含む	34	×	30	15
P 2	10YR 3/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層ブロックを少量、炭化物粒をごく少量、含む	45	×	25	16
P 3	10YR 3/3 褐色粘土質シルト	ややあり	あり	V層ブロックを極少量、炭化物を多量含む(抜取穴)	(30)	×	(20)	12
	10YR 2/3 黒褐色粘土質シルト	あり	ややあり	V層ブロックを少量、炭化物を多量含む(柱掘方)				
P 4	10YR 2/3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粒を少量含む	24	×	20	18
P 5	10YR 3/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粒を若干、炭化物粒を比較的多く、含む	28	×	26	23
P 6	10YR 2/3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粒を少量含む	25	×	22	20
P 7	10YR 3/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり		21	×	18	13
P 8	10YR 2/3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粒を若干含む	20	×	20	16
P 9	10YR 3/3 褐色粘土質シルト	あまりなし	ややあり	V層粒をごく少量含む	36	×	30	35
P10	10YR 2/3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粒をごく少量含む	20	×	20	15
P11	10YR 2/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	やや砂質味あり 噴砂により一部攪乱されている	35	×	30	36
P12	10YR 2/3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層ブロックをやや多く含む。噴砂により一部攪乱されている	40	×	30	30
P13	10YR 2/3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層ブロックを若干含む	22	×	20	12
P14	10YR 3/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり		21	×	17	10
P15	10YR 3/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	あり	V層粒をごく少量含む	25	×	20	12

第1表 土層註記表

ら推定した柱間寸法は東から約2.0m、約1.9mである。梁行総長は3.6mで、柱間寸法は約1.8mの等間である。

掘り方の平面形は、隅丸方形である。規模は、一辺45~55cm程度で、検出面からの深さは32~45cmである。すべての柱穴に、柱抜取り穴が伴う。この柱抜取り穴は、平面および断面の形状と、遺物や炭化物などが多く含まれることから、柱抜取り穴と判断される。



図中番号	登録番号	遺構名	出土層位	種別	器種	法量(cm)			特徴・備考	写真図版
						器高	口径	底径		
1	E-1	SI11 P3	1	須恵器	平瓶	(11.5)	-	-	内面:ロクロナデ 外面:ロクロナデ、下半 回転ヘラズリ	3-1

第3図 SB1掘立柱建物跡出土遺物

掘り方埋土は、黒褐色の粘土質シルトである。柱抜取り穴の堆積土は黒褐色~暗褐色の粘土質シルトで、炭化物粒や、V層を起源とする褐色粘土質シルトを粒状もしくはブロック状に多量に含んでいる。

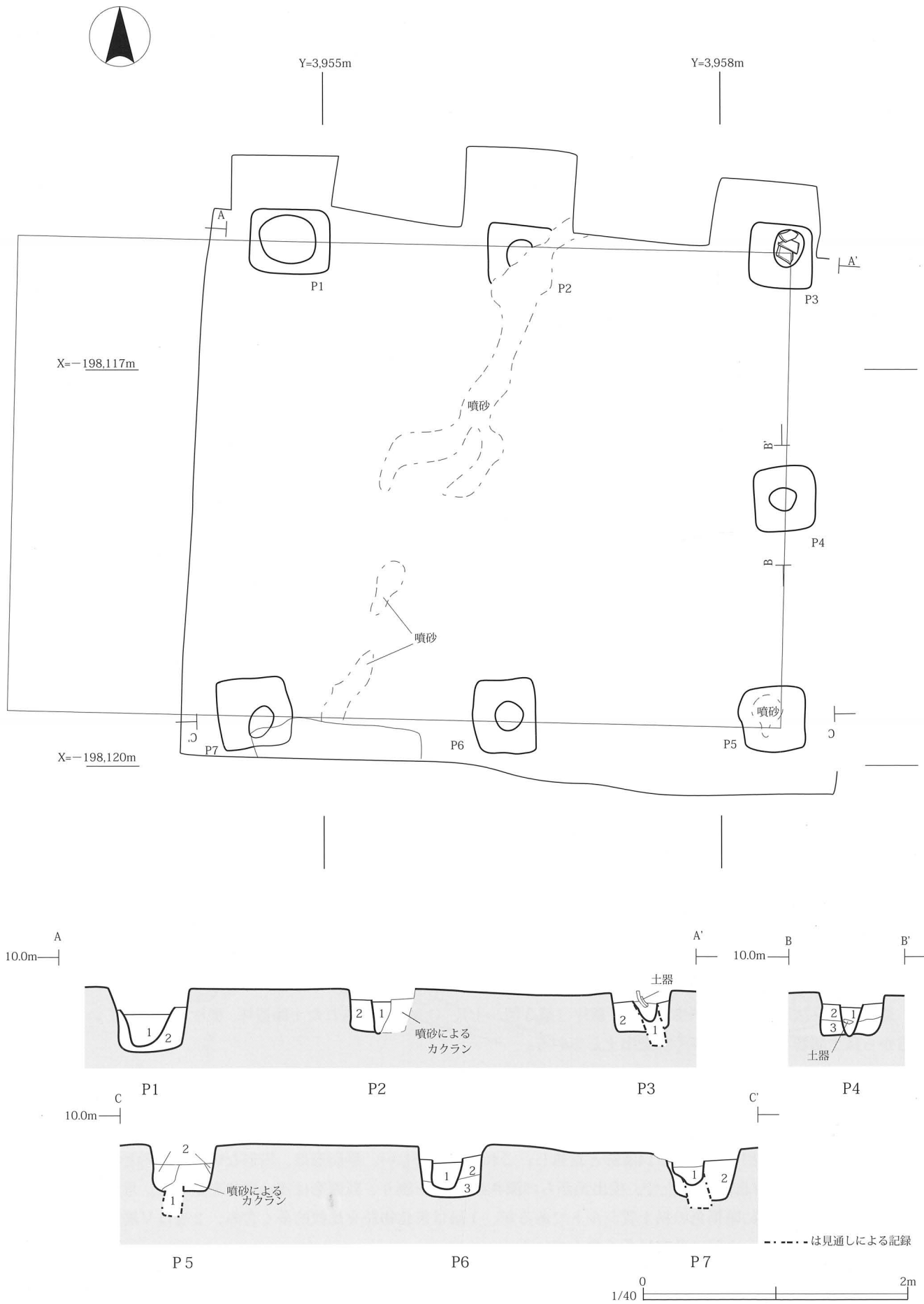
遺物は、柱抜取り穴から須恵器甕・平瓶片(第3図-1)、ロクロ調整された土師器杯・甕片が出土している。掘り方からは土師器杯・甕片がごく少量出土している。

2) 土坑

SK 2土坑

調査区東南部で検出した。SD14溝跡と重複し、これよりも新しい。平面形は、円形ないし楕円形と推測される。規模は東西85cm、南北70cm以上で、検出面からの深さは25cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は、2層に分層される。ともに暗褐色の粘土質シルトであるが、1層は炭化物粒を比較的多く含み、2層はV層起源の粘土質シルトを粒状~ブロック状に非常に多く含んでいる。

遺物は、1層から、土師器杯(第5図-1)、赤焼土器杯(第5図-2、3)、須恵器甕片などが出土している。土師器は、破片を含め17点出土したが、確認できるものはすべてロクロ調整である。



第4図 SB1掘立柱建物跡 平面・断面図

番号	層位	土色・土質	しまり	粘性	混入物等	備考
P1	1	10YR 3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粒を比較的多く含む	柱抜取穴
	2	10YR 3/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粒をごく少量含む	柱掘り方
P2	1	10YR 3/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	炭化物粒を少量含む	柱抜取穴
	2	10YR 3/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり		柱掘り方
P3	1	10YR 3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	あり	炭化物粒を多量含む	柱抜取穴
	2	10YR 2/3 黒褐色粘土質シルト	あり	ややあり		柱掘り方
P4	1	10YR 2/3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	炭化物粒やや多く含む。粘性は2層よりも強く、しまりは2層より若干弱い	柱抜取穴
	2	10YR 2/3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層をブロック状にやや多く含む。しまりは1層よりも強く、粘性は1層よりも弱い	柱掘り方
	3	10YR 3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層を粒~ブロック状にごく少量含む	
P5	1	10YR 3/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	炭化物を比較的多く含む	柱抜取穴
	2	10YR 3/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層粒をごく少量、炭化物をごく少量含む	柱掘り方
P6	1	10YR 2/3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	あり	V層ブロックを比較的多く、炭化物のブロックを多量含む	柱抜取穴
	2	10YR 2/3 黒褐色粘土質シルト	あり	ややあり		柱掘り方
3	10YR 2/3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	2層よりも砂質味強い		
P7	1	10YR 3/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層を粒~ブロック状に多量、炭化物粒を少量、含む	柱抜取穴
	2	10YR 2/3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり		柱掘り方

第2表 SB1掘立柱建物跡 土層註記表

SK9土坑

調査区西部で検出した。他の遺構との重複はない。平面形は楕円形である。規模は長軸（南北）94cm、短軸（東西）37cmで、検出面からの深さは32cmを測り、断面形はU字形を呈する。堆積土は単層で、黒褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

3) 溝跡

検出した13条の溝跡のうち、周辺の調査成果、各溝の方向や規模などから、SD3溝跡とSD5~7溝跡、およびSD10溝跡、SD11溝跡、SD13溝跡、SD14溝跡はそれぞれ小溝状遺構群の一部と考えられるが、調査区の制約から詳細は不明である。

SD3溝跡

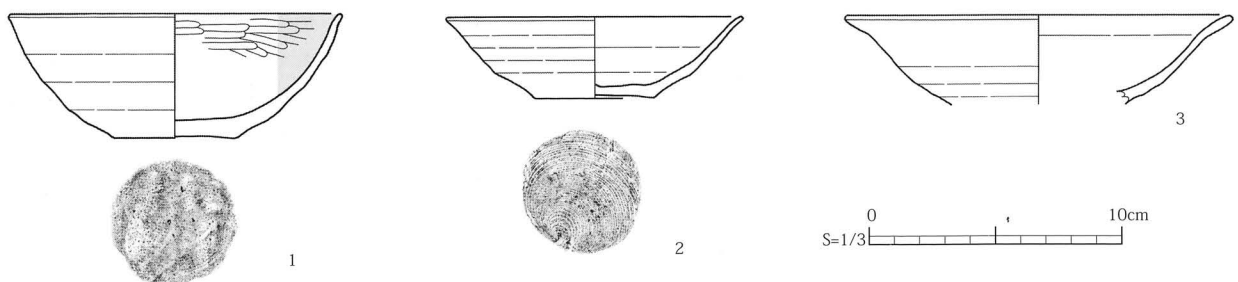
南北方向の溝跡である。他の遺構との重複はない。検出長は約2.65mである。規模は上端幅約35cm、下端幅約15cm、深さ約13cmを測り、断面形は逆台形状を呈する。堆積土は単層で、黒褐色の粘土質シルトである。

遺物は土師器の小片が1点出土している。

SD4溝跡

南北方向の溝跡である。SD5溝跡、SD14溝跡と重複関係があり、これらより新しい。検出長は1.40mである。規模は上端幅約55cm、下端幅約25cm、深さ約33cmを測り、断面形は逆台形状を呈する。堆積土は単層で、暗褐色の粘土質シルトである。

遺物は、土師器の坏片（体部）1点・（中点）甕片（口縁部）1点、須恵器甕片（口縁部1点、体部3点）が出土し



図中番号	登録番号	遺構名	出土層位	種別	器種	法量(cm)			特徴・備考	写真図版
						器高	口径	底径		
1	D-1	SK2	1	土師器	坏	4.9	13.2	5.0	内面:ヘラミガキ→黒色処理 外面:ロクロナデ 底部:回転糸切り	3-2
2	D-2	SK2	1	赤焼土器	坏	3.2	(11.8)	4.8	内面:ロクロナデ 外面:ロクロナデ 底部:回転糸切り	3-3
3	D-3	SK2	1	赤焼土器	坏	(3.5)	(15.3)	-	内面:ロクロナデ 外面:ロクロナデ	-

第5図 SK2土坑 出土遺物

ている。

SD 5 溝跡

南北方向の溝跡である。SD 4 溝跡、SD 13 溝跡、P 6 と重複関係があり、SD 4 溝跡、P 6 より古く、SD 13 溝跡より新しい。検出長は1.7mである。規模は上端幅約30cm、下端幅約20cm、深さ約12cmを測り、断面形は逆台形状を呈する。堆積土は単層で、黒褐色の粘土質シルトである。

遺物は、ロクロ土師器片が1点出土している。

SD 6 溝跡

南北方向の溝跡である。SD 11 溝跡、P 9 と重複関係があり、P 9 より古く、SD 11 溝跡より新しい。検出長は1.6mである。規模は上端幅約50cm、下端幅約25cm、深さ約19cmを測り、断面形は逆台形状を呈する。堆積土は単層で、暗褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

SD 7 溝跡

南北方向の溝跡である。SB 1 掘立柱建物跡と重複関係があり、これより古い。検出長は2.05mである。規模は上端幅約40cm、下端幅約15cm、深さ約15cmを測り、断面形は逆台形状を呈する。堆積土は単層で、暗褐色の粘土質シルトである。

遺物は、須恵器坏片1点、甕片（体部）3点が出土している。

SD 8 溝跡

南北方向の溝跡である。SB 1 掘立柱建物跡と重複関係があり、これより古い。検出長は2.2mである。規模は上端幅約25cm、下端幅約10cm、深さ約4cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、暗褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

SD 10 溝跡

南北方向の溝跡である。他の遺構との重複はない。検出長は1.7mである。規模は上端幅約28cm、下端幅約15cm、深さ約10cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、暗褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

SD 11 溝跡

南北方向の溝跡である。SD 6 溝跡、SD 15 溝跡、SB 1 掘立柱建物跡、P 13 と重複関係があり、SD 6 溝跡、P 13、SB 1 掘立柱建物跡より古く、SD 15 溝跡より新しい。検出長は2.6mである。規模は上端幅約30cm、下端幅約15cm、深さ約13cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、暗褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

SD 12 溝跡

南北方向の溝跡である。他の遺構との重複はない。検出長は1.4mである。規模は上端幅約30cm、下端幅約18cm、深さ約9cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、黒褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

SD 13 溝跡

南北方向の溝跡である。SD 5 溝跡と重複関係があり、これより古い。検出長は2.4mである。規模は上端幅約40cm、下端幅約18cm、深さ約13cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、暗褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

SD14溝跡

南北方向の溝跡である。SK2土坑、SD4溝跡と重複関係があり、これより古い。検出長は0.7mである。規模は上端幅約35cm、下端幅約20cm、深さ約11cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、暗褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

SD15溝跡

東西方向の溝跡である。SD11溝跡と重複関係があり、これより古い。検出長は0.9mである。規模は上端幅約22cm、下端幅約10cm、深さ約3cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、黒褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

SD16溝跡

南北方向の溝跡である。SB1掘立柱建物跡と重複関係があり、これより古い。検出長は0.4mである。規模は上端幅約18cm、下端幅約10cm、深さ約8cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、暗褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

4) ピット

15基検出したが、建物を構成するようなピットや、有意な配列のピットは検出されなかった。各ピットの規模等および堆積土は第1表のとおりである。

遺物は、P7から須恵器甕の小片が1点出土している。

5 まとめ

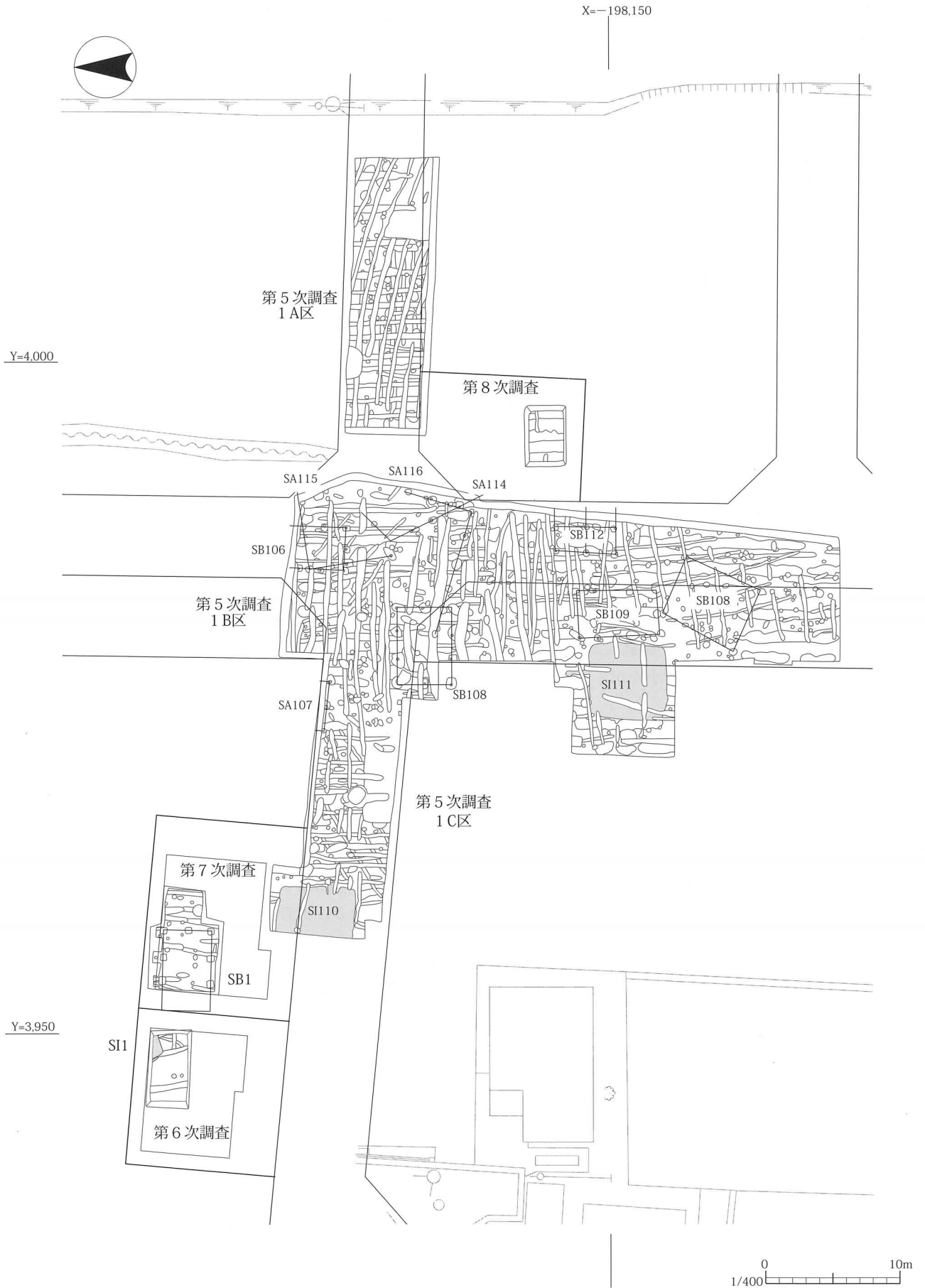
今回の調査地点は、六反田遺跡内の北部に位置し、第6次調査区の東、第5次調査1C区の北にあたる（16頁第6図参照）。

今回の調査では、掘立柱建物跡1棟、土坑2基、溝跡13条、ピット15基を検出した。

掘立柱建物跡は、柱抜き穴から、ロクロ土師器坏などが出土していることから、9世紀以降に廃絶したものと考えられる。P3抜き穴出土の須恵器平瓶は、胴部推定復元径11.5cm、現存器高3.7cmの小型品である。平瓶の時期については不詳であり、また、掘立柱建物跡の時期を示すものではないが、大野田官衙廃絶後の土地利用に関わる資料であろう。

SK2土坑からは、ロクロ土師器坏、須恵器甕のほか赤焼土器坏が出土しており、概ね10世紀代に属するものと考えられる。

溝跡については、周辺の調査でも検出されている、古代の畑耕作に関わる小溝状遺構群の一部と考えられるが、調査区に制約があり、詳細は不明である。



※仙台市文化財調査報告書第243集をもとに、加筆
 ※第6.8次調査は、隣地境界線等を基準に合成

第6図 既調査区と今回調査区

1 遺構検出状況（拡張前）（東から）



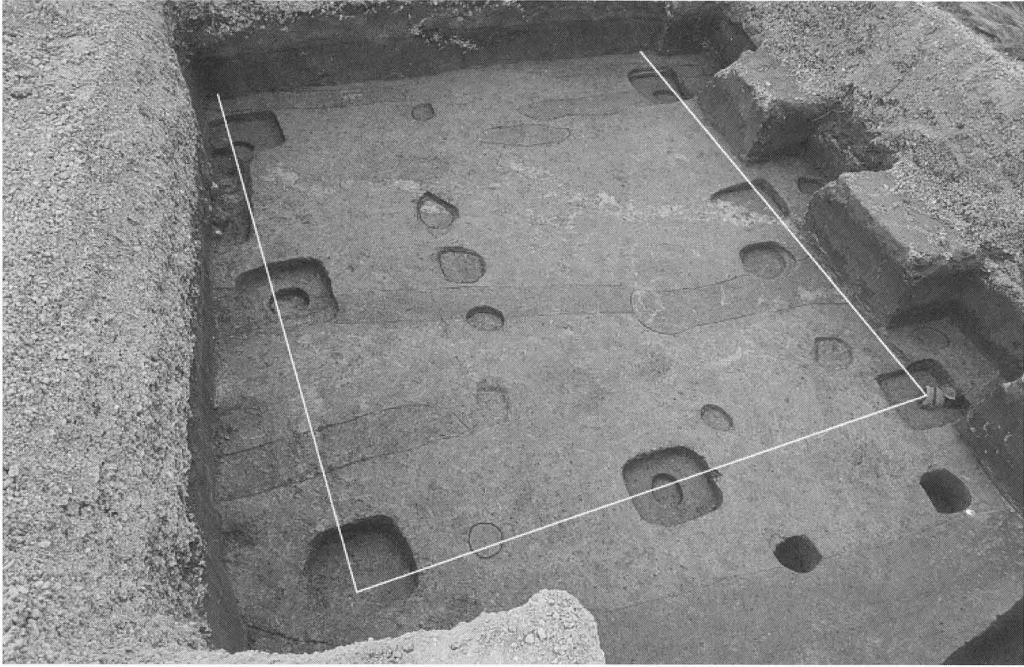
2 遺構完掘状況（東から）



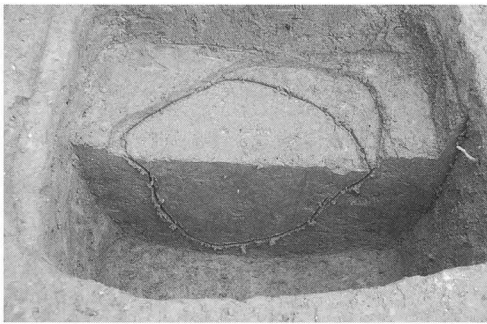
3 SK2土坑検出状況（北から）



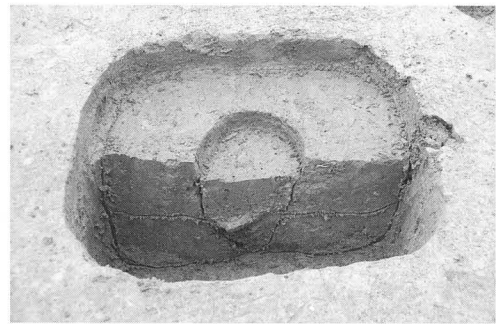
写真図版 1



4 SB 1 掘立柱建物跡全景（東から）



5 P1 断面（南から）



6 P4 断面（東から）



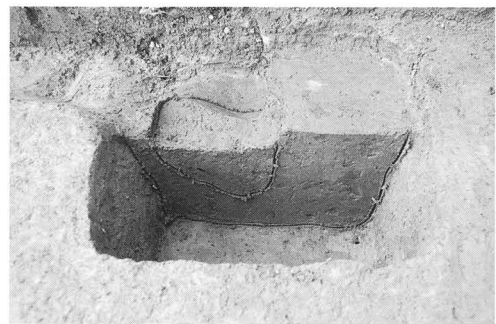
7 P3 遺物出土状況（南から）



8 P3 断面（南から）



9 P6 断面（北から）

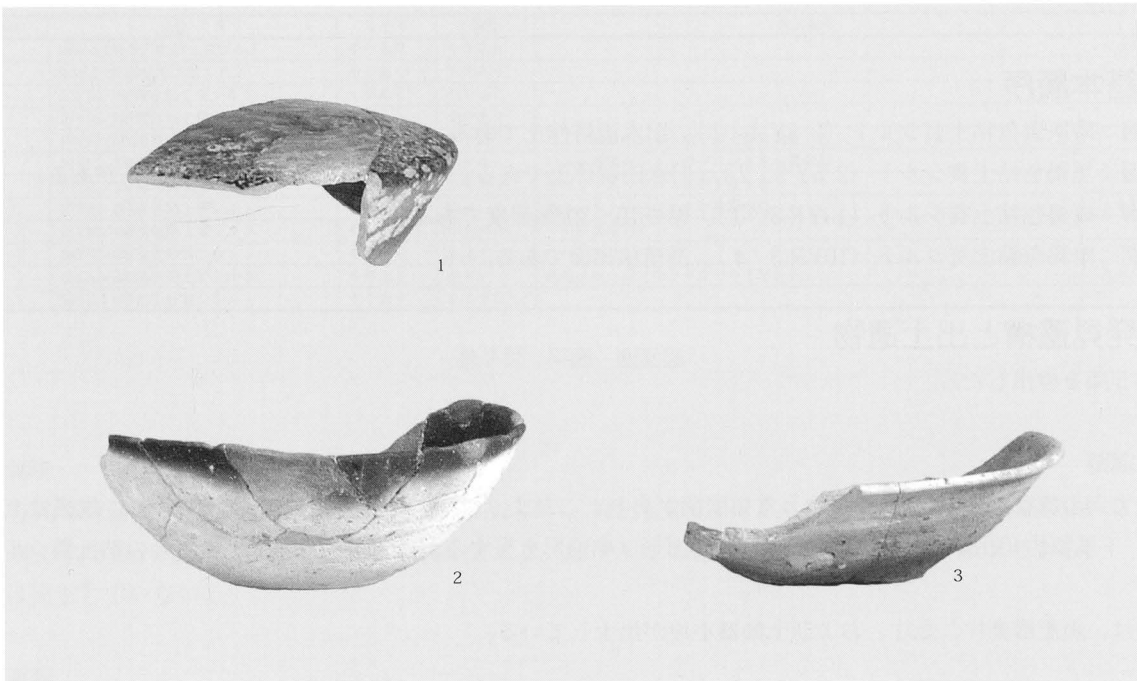


10 P7 断面（南から）

写真図版 2



11 北壁断面（南西から）

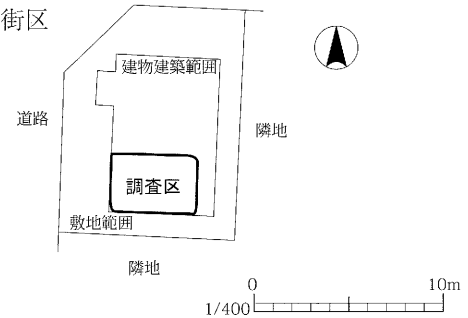


出土遺物

IV 六反田遺跡第8次発掘調査報告

1 調査要項

遺跡名	六反田遺跡（宮城県遺跡登録番号01189）
調査地点	太白区大野田富沢駅周辺土地区画整理事業地内6-1街区
調査期間	平成22年9月6日～10日
調査対象面積	47.2㎡
調査面積	15㎡
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係
担当職員	主事 廣瀬真理子 文化財教諭 鈴木健弘



第1図 調査区配置図

2 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成22年6月25日付で申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して、文化財保護法第93条発掘届（H22教生文第114-61号で回答）に基づき実施した。確認調査は平成22年9月6日に着手し、遺構が検出されたため、引き続き本発掘調査を実施した。建築範囲内に、南北3.0m×東西5.0mの調査区を設定した。重機により盛土およびI層を除去後、人力によりIV層を掘り下げ、V層上面で遺構検出作業を行い、溝跡5条を検出した。本調査区では六反田遺跡周辺に堆積する、II層（黒褐色粘土質シルト）およびIII層（黄褐色粘土質シルト）は確認されなかった。適宜、平面・断面図（1/20）を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。

3 基本層序

- I a層：暗灰黄色粘土質シルト（2.5Y 4/2）。旧水田耕作土である。厚さ10～30cmである。
- I b層：黒褐色粘土質シルト（2.5Y 3/2）。旧水田耕作土である。厚さ10cm程度で、下面に凹凸がある。
- IV層：暗褐色粘土質シルト（10YR 3/3）。厚さ15～30cm程度である。
- V層：暗褐色粘土質シルト（10YR 3/4）。遺構検出面である。

4 発見遺構と出土遺物

溝跡5条を検出した。

SD1 溝跡

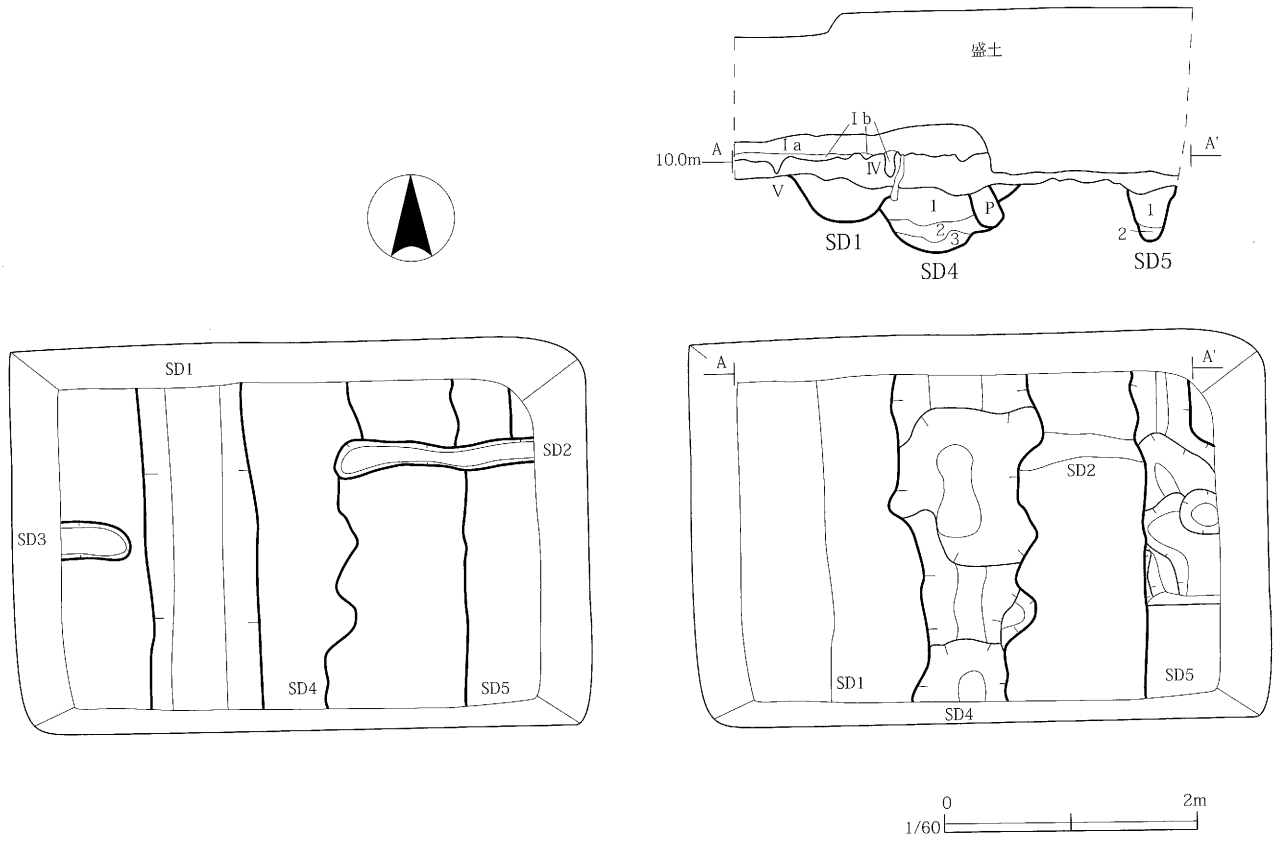
南北方向の溝跡である。SD4溝跡と重複関係があり、これよりも新しい。検出長は2.6mである。規模は上端幅約80cm、下端幅約40cm、深さ約35cmを測り、断面形は半円形を呈する。堆積土は単層で、黒褐色の粘土質シルトである。

遺物は、須恵器甕片、壺片、および土師器小片が出土している。

SD2 溝跡

東西方向の溝跡である。SD4溝跡、SD5溝跡と重複関係があり、これらよりも新しい。検出長は1.6mである。規模は上端幅約20cm、下端幅約15cm、深さ約7cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、黒褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。



層位・遺構	土色・土質	しまり	粘性	混入物等	備考	
I a	2.5Y4/2暗黄褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり		旧水田耕作土	
I b	2.5Y3/2黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり		旧水田耕作土	
IV	10YR3/3暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり			
V	10YR3/4暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり			
SD1	10YR2/3黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	にぶい黄褐色シルト粒をごく少量含む		
SD2	10YR2/3黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	にぶい黄褐色シルトのブロックを少量含む		
SD3	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	褐色シルトのブロックを少量含む		
SD4	1	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	ややあり	あり	褐色シルトのブロックを多量含む	人為的埋土か
	2	10YR3/4暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	やや砂質味あり	
	3	10YR3/4暗褐色砂質シルト	ややあり	あまりなし		
SD5	1	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	ややあり	あり	褐色シルトのブロックをやや多く含む	人為的埋土か
	2	10YR3/4暗褐色砂質シルト	ややあり	あまりなし		

第2図 平面・断面図

SD3 溝跡

東西方向の溝跡である。他の遺構との重複関係はない。検出長は0.6mである。規模は上端幅約30cm、下端幅約20cm、深さ約8cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は単層で、黒褐色の粘土質シルトである。

遺物は出土していない。

SD4 溝跡

南北方向の溝跡である。SD1溝跡、SD2溝跡と重複関係があり、これらよりも古い。検出長は2.6mである。規模は上端幅60~120cm、下端幅20~60cm、深さ42~62cm程度である。底面にかなりの凹凸がある。堆積土は3層に細別され、第1層は褐色シルトのブロックを多量に含む暗褐色の粘土質シルトであり、人為的埋土とみられる。

遺物は出土していない。

SD5 溝跡

南北方向の溝跡である。SD2溝跡と重複関係があり、これよりも古い。検出長は2.6mである。上端幅60cm以上、

下端幅10～60cm、深さ40～63cm程度である。底面にかなりの凹凸がある。堆積土は2層に細別され、第1層は褐色シルトのブロックをやや多く含む黒褐色の粘土質シルトであり、人為的埋土と見られる。

遺物は、土師器小片が1点出土している。

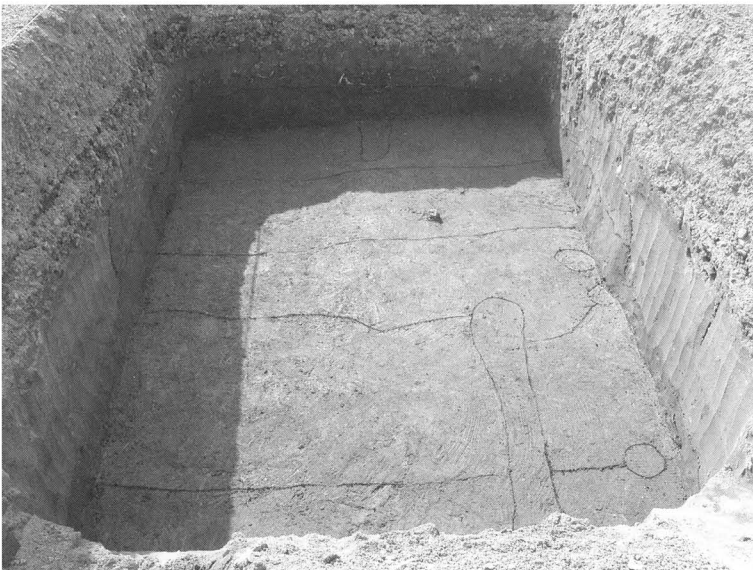
5 まとめ

今回の調査地点は、六反田遺跡内の北部に位置し、平成9年度における既調査部分（第5次調査1A区、1B区）の南東にあたる（16頁第6図参照）。

調査区に制約があるため、詳細は不明であるが、SD1溝跡～SD3溝跡については、その規模や規則性などから、周辺の調査でも広く検出され、古代の畑耕作に関わる小溝状遺構群として認識されているものの一部と考えられる。

一方、SD4溝跡およびSD5溝跡については、規模や形態、堆積土の状況など一般的な小溝状遺構群とは異なる。第5次調査1B区の南側で検出された11号小溝状遺構群は、規模も大きく、底面の凹凸が著しいという特徴を有しており、今回検出した溝跡と似た特徴を持つ。11号小溝状遺構群については、他の小溝状遺構群と規模や形態などに違いがあり、性格についても判明しないことから、類例が増えるのを待ち、名称を含めた再検討の必要性が指摘されている（※）。今回検出されたSD4溝跡およびSD5溝跡の性格等についても、今後の検討課題である。

※仙台市教育委員会2000『大野田古墳群・王ノ壇遺跡・六反田遺跡—仙台市富沢駅周辺区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書I—』
仙台市文化財調査報告書第243集 333、363頁



1 遺構検出状況（東から）



2 遺構完掘状況（東南から）

写真図版 1

V 鳥居塚古墳第3次発掘調査報告

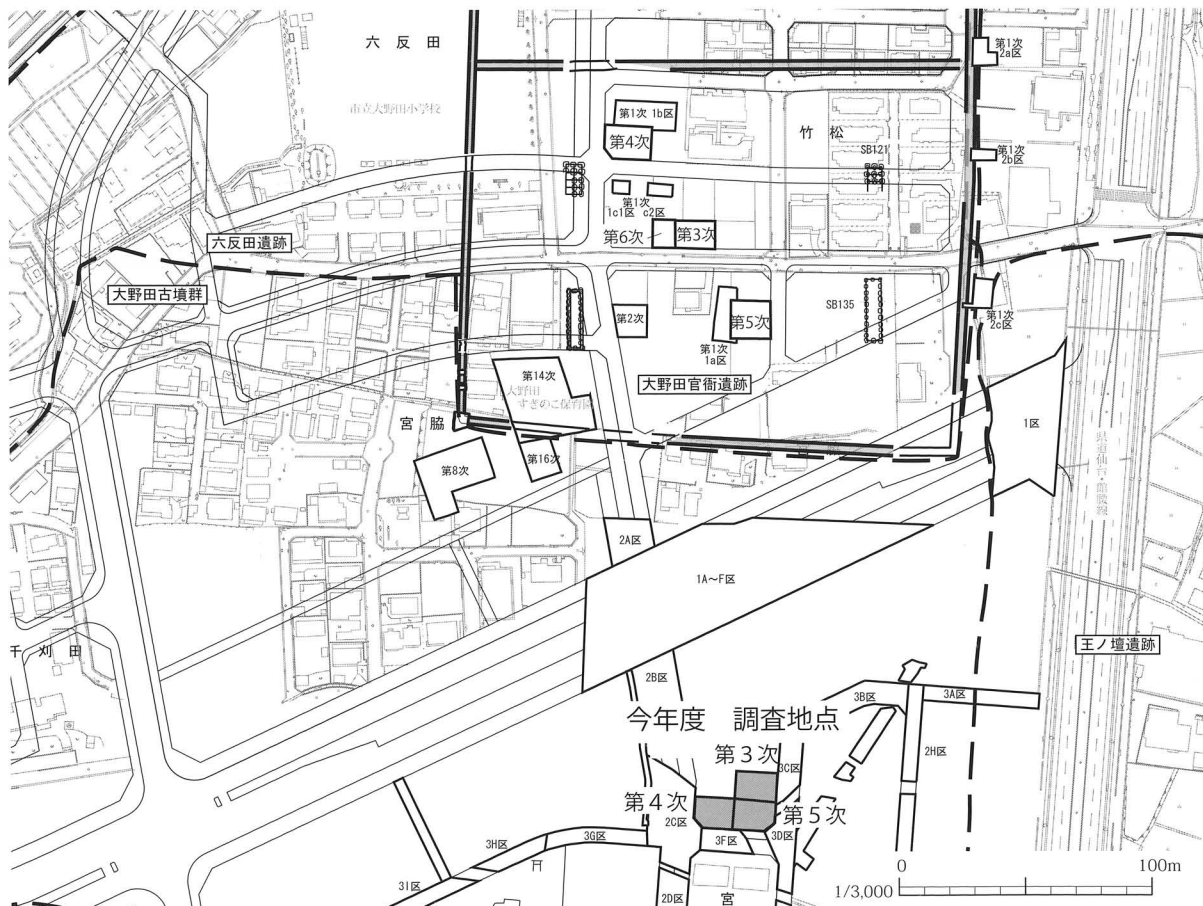
1 調査要項

遺跡名	鳥居塚古墳（宮城県遺跡登録番号01322）
調査地点	仙台市太白区大野田字王ノ檀1-1、1-2の各一部
調査期間	平成22年6月7日～9日
調査対象面積	74.61㎡
調査面積	22㎡
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係
担当職員	主事 廣瀬真理子 文化財教諭 鈴木健弘

2 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成22年4月19日付で、申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して、文化財保護法第93条（H22教生文第114-15号で回答）に基づき実施した。調査は平成22年6月7日に着手し、遺構が検出されたため、引き続き本発掘調査を実施した。住宅建築範囲内に南北6.3m×東西3.5mの調査区を設定した。重機により、盛土およびⅠ・Ⅱ層を除去後、Ⅲ層上面で、遺構検出作業を行い、ピット2基を検出し、精査を行った。引き続き、遺構の有無を確認しながらⅤ層上面まで掘り下げを行い、古墳周溝、ピット、溝跡を検出した。

適宜、平面・断面図（S=1/20、1/50）を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。



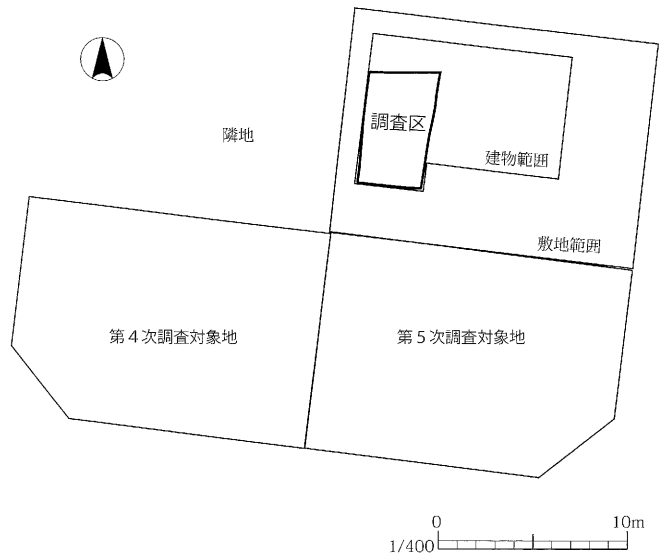
第1図 調査地点の位置

3 遺跡の位置と環境

鳥居塚古墳は、仙台市の南東部、仙台市営地下鉄富沢駅から南東約500mの地点に位置する。名取川左岸の自然堤防上に立地している。

鳥居塚古墳の西方約100mには、市内最大級の円墳である春日社古墳、東方約130mには王ノ壇古墳、また周囲には中小規模の円墳が群集している。

本古墳は、これまでに2次の調査が実施されている（第1次：昭和52年の市道拡幅に伴う調査、第2次：平成8、9年度「富沢駅周辺土地区画整理事業」に伴う調査）。第2次調査において、前方後円墳であることが判明した。また、第1次調査で墳丘積土を部分的に確認しているが、第2次調査では確認されていない。出土遺物は、円筒埴輪、朝顔形埴輪片（2点）や形象埴輪片（1点）の他、縄文土器や土師器、須恵器、石器などがある。



第2図 調査区配置図

4 基本層序

- I 層：灰色粘土質シルト（5YR 5/1）。盛土直下の旧水田耕作土である。厚さ10～15cm程度である。
- II 層：黒褐色粘土質シルト（10YR 2/2）。マンガング粒を多量含み、酸化鉄がやや多く沈着している。厚さ5～10cm程度である。
- IIIa層：暗褐色粘土質シルト（10YR 3/4）。砂質味が強く、灰白色火山灰の粒を少量含む。ピット2基の検出面である。厚さ20～30cm程度である。
- IIIb層：暗褐色粘土質シルト（10YR 3/3）。厚さ15～30cm程度である。
- IV 層：黒褐色粘土質シルト（10YR 2/3）。厚さ20cm程度である。
- V 層：暗褐色粘土質シルト（10YR 3/4）。古墳周溝、ピット、溝跡の検出面である。
- VI 層：暗褐色粘土質シルト（10YR 3/3）。

5 発見遺構と出土遺物

III層およびV層上面で、遺構を検出した。III層上面ではピット2基、V層上面では鳥居塚古墳の周溝の一部と、溝跡2条、ピット1基を検出している。

遺物は、III層から土師器片が1点出土しているのみである。

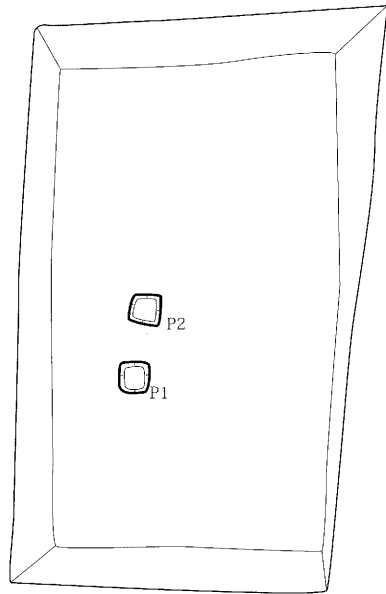
1) 鳥居塚古墳周溝

調査区南端で検出された。検出長は約2.9mである。規模は、上端幅2.6m以上、下端幅1.2m以上、深さ約50cmである。平面形は緩やかな弧状を呈する。周溝の壁は、底面から緩やかに立ち上がる。

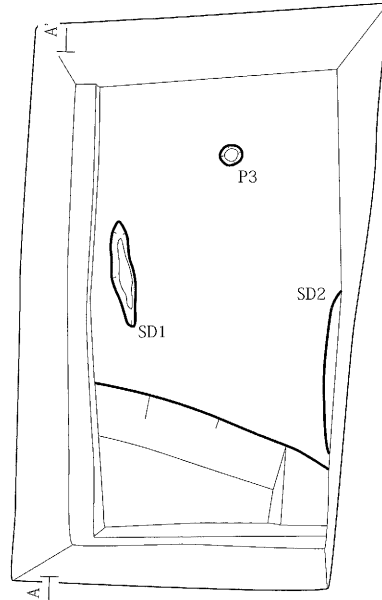
堆積土は、暗褐色～黒褐色の粘土質シルトであり、5層に細分される。いずれも自然堆積土である。

2) 溝跡

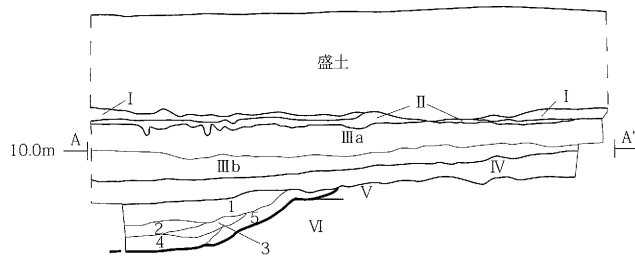
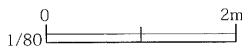
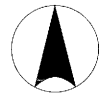
S D 1 溝跡は、南北方向の溝跡である。他の遺構との重複はない。検出長は、約1.1mである。規模は上端幅24cm、下端幅14cm、深さ8cmである。断面形は浅い皿状を呈する。堆積土は、褐色シルトのブロックを多量に含む暗褐色粘土質シルトである。S D 2 溝跡は南北方向の溝跡であるが、ごく一部の検出であったため、詳細については不明である。



III層上面平面図



V層上面平面図



西壁断面図

層位・遺構	土色・土質	しまり	粘性	混入物等	備考	
I	5YR5/1灰色粘土質シルト	ややあり	ややあり		旧水田耕作土	
II	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	マンガン粒を多量含み、酸化鉄やや多く沈着する		
IIIa	10YR3/4暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	砂質味強い、灰白色火山灰の粒を少量含む		
IIIb	10YR3/3暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	IIIa層より粘性強い		
IV	10YR2/3黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり			
V	10YR3/4暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり			
VI	10YR3/3暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり			
P1	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	黄褐色～灰黄褐色シルトをブロック状にやや多く含む		
P2	10YR2/2黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	黄褐色～灰黄褐色シルトをブロック状に多く含む		
P3	10YR3/3暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり			
SD1	10YR3/4暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	褐色シルトのブロックを多量含む		
SD2	10YR3/4暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	褐色シルトのブロックを多量含む	小溝状遺構群	
占墳周溝	1	10YR3/3暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり		周溝堆積土
	2	10YR3/2黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	粘性、1層より強い。炭化物の粒をごく少量含む	
	3	10YR3/4暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり		
	4	10YR3/3暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	炭化物の粒をごく少量含む	
	5	10YR3/4暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	若干砂質味あり	

第3図 平面・断面図

3) ピット

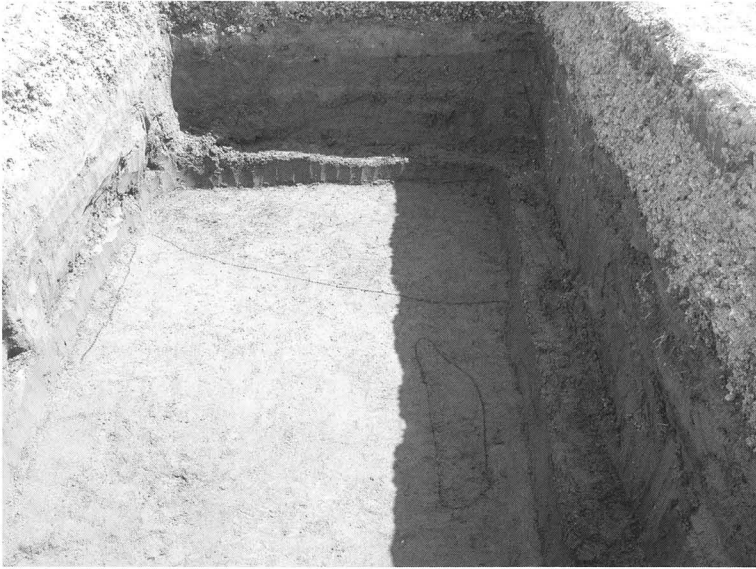
III層上面で2基、V層上面で1基検出したが、いずれも柱痕跡等は確認されなかった。遺物は出土していない。

6 まとめ

今回の調査では、鳥居塚古墳の周溝、溝跡、ピットを検出した。

鳥居塚古墳の周溝については、位置から、後円部北側の周溝（外縁）と考えられる。

溝跡については、古代の畑耕作に関わる小溝状遺構群の一部である可能性がある。



1 V層上面遺構検出状況（北から）



2 周溝完掘状況（東から）



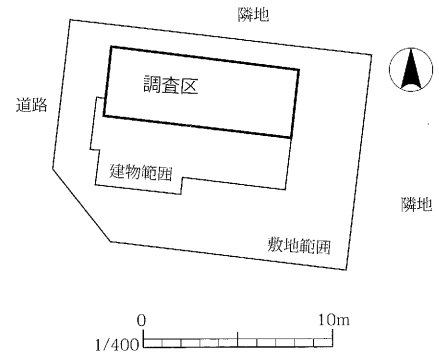
3 西壁断面（東から）

写真図版 1

VI 鳥居塚古墳第4次発掘調査報告

1 調査要項

遺跡名	鳥居塚古墳（宮城県遺跡登録番号01322）
調査地点	仙台市太白区大野田字宮15番4
調査期間	平成22年9月6日～13日
調査対象面積	69.224㎡
調査面積	40㎡
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係
担当職員	主事 猪狩俊哉 文化財教諭 吉野 信



第1図 調査区配置図

2 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成22年7月20日付で、申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して、文化財保護法第93条（H22教生文第114-88号で回答）に基づき実施した。調査は平成22年9月6日に着手し、遺構が検出されたため、引き続き本発掘調査を実施した。住宅建築範囲内に、南北4.0m×東西10.0mの調査区を設定した。重機により盛土およびⅠ・Ⅱ層を除去後、人力によりⅢ・Ⅳ層を掘下げ、Ⅴ層上面で遺構検出作業を行い、鳥居塚古墳の周溝を検出した。なお、調査区の北東部と南西部は既調査部分と重複していた。

適宜、平面図・断面図（S=1/20、1/40、1/100）を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。

3 基本層序

- Ⅰ層：褐色粘土質シルト（10YR 4/4）。盛土直下の旧水田耕作土である。厚さ15～20cm程度である。
- Ⅱ層：暗褐色粘土質シルト（10YR 3/3）。厚さ20cm程度である。
- Ⅲa層：黄褐色砂質シルト（10YR 5/6）。厚さ5～15cm程度である。
- Ⅲb層：褐色砂質シルト（7.5YR 4/3）。厚さ10～20cm程度である。
- Ⅲc層：灰褐色砂質シルト（7.5YR 4/2）。厚さ5～30cm程度である。
- Ⅲd層：灰褐色砂質シルト（7.5YR 4/2）。厚さ20～30cm程度である。
- Ⅳ層：暗褐色粘土質シルト（10YR 3/3）。厚さ20cm程度である。
- Ⅴ層：にぶい黄褐色粘土質シルト（10YR 4/3）。遺構の検出面である。
- Ⅵ層：褐色粘土質シルト（10YR 4/4）。

4 発見遺構と出土遺物

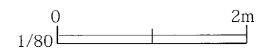
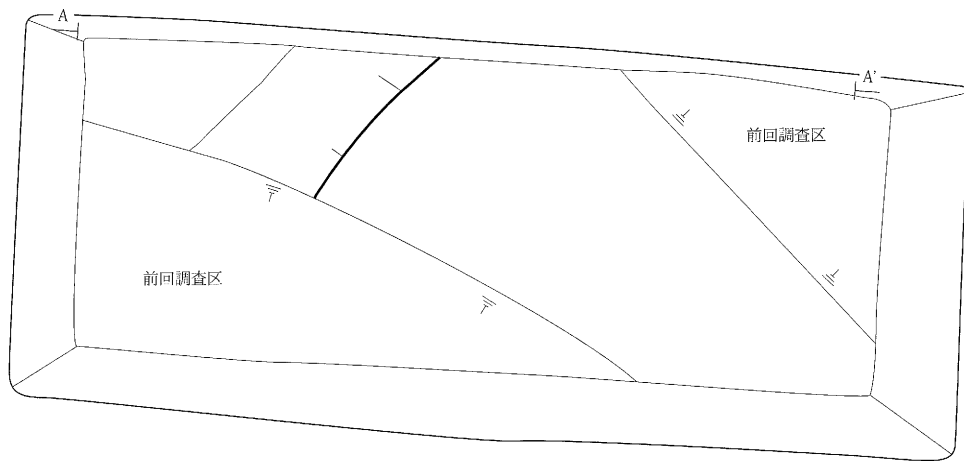
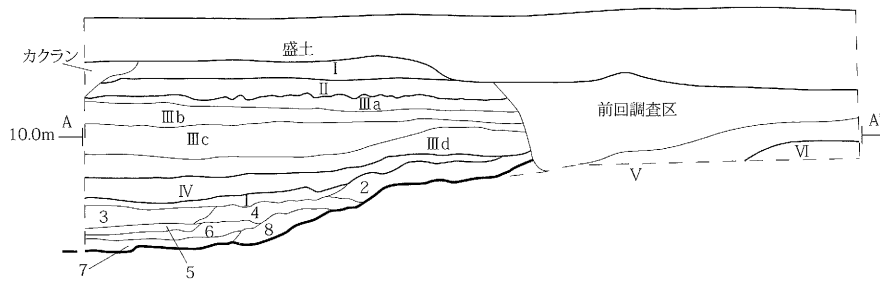
鳥居塚古墳周溝

調査区西側で検出された。検出長は約2.0mである。規模は、上端幅2.8m以上、下端幅1.4m以上、深さ約70cmである。内縁の壁は、底面からやや急角度をもって立ち上がる。堆積土は、暗褐色～黒褐色の粘土質シルトの8層に細分され、いずれも自然堆積と考えられる。

遺物は、埴輪片（基底部、第3図-1）、埴輪小片（1点）が出土している。

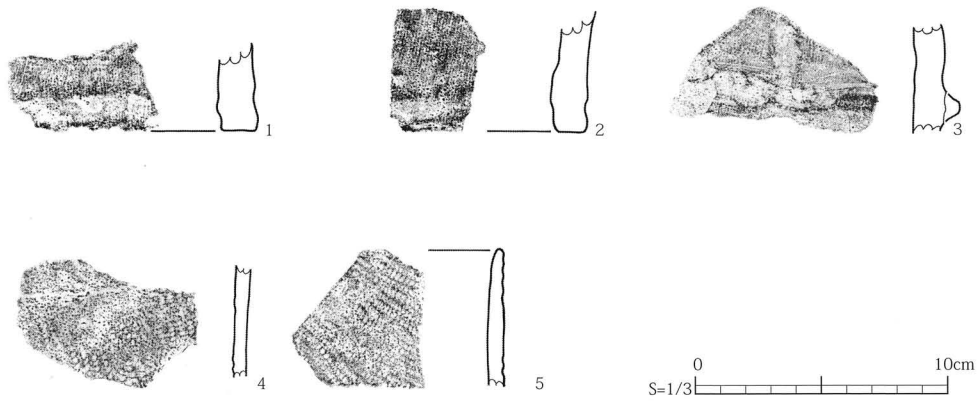
5 まとめ

今回の調査では、鳥居塚古墳の周溝を検出した。検出位置から、後円部北西側の周溝（内縁）と考えられる。また、基本層などから縄文土器が出土し、周辺に分布する縄文時代の遺跡からの流入等が想定される。



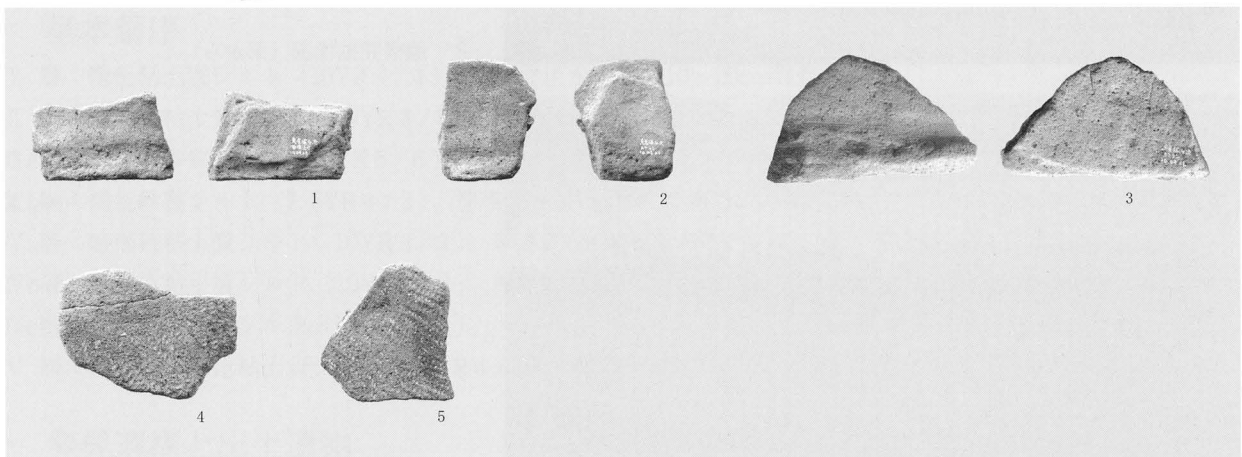
層位・遺構	土色・土質	しまり	粘性	混入物等	備考	
I	10YR 4/4 褐色粘土質シルト	あり	あり	斑状に酸化鉄を含む	旧水田耕作土	
II	10YR 3/3 暗褐色粘土質シルト	あり	あり			
III a	10YR 5/6 黄褐色砂質シルト	あり	ややあり	下位に灰白色火山灰粒を含む		
III b	7.5YR 4/3 褐色砂質シルト	あり	ややあり	全体に灰白色火山灰粒を含む		
III c	7.5YR 4/2 灰褐色砂質シルト	あり	ややあり	まばらに粘土を含む		
III d	7.5YR 4/2 灰褐色粘土質シルト	あり	あり	下位に灰白色火山灰粒を含む		
IV	10YR 3/3 暗褐色粘土質シルト	あり	あり	底面に凹凸あり		
V	10YR 4/3 におい黄褐色粘土質シルト	ややあり	あり			
VI	10YR 4/4 褐色粘土質シルト	ややあり	なし			
古墳周溝	1	10YR 3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	あり		周溝堆積土
	2	7.5YR 3/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	あり	におい黄褐色の砂がまばらに混じる	
	3	7.5YR 3/1 黒褐色粘土質シルト	弱い	あり	下位に炭化物、砂を含む	
	4	7.5YR 3/2 黒褐色粘土質シルト	弱い	あり	炭化物を微量含む	
	5	10YR 3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	あり	砂、炭化物を少量含む	
	6	10YR 4/3 におい黄褐色粘土質シルト	ややあり	あり	黄褐色粘土ブロックを少量含む	
	7	10YR 3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	あり	黄褐色砂を含む	
	8	10YR 3/4 暗褐色粘土質シルト	ややあり	あり	黄褐色粘土ブロックを微量含む	

第2図 平面・断面図



図中 番号	登録 番号	出土層位	種別	器種	法量			特徴・備考	写真 図版
					器高	口径	底径		
1	S-1	周溝	埴輪	円筒埴輪(基部)	-	-	-	内面:ナデ 外面:タテハケ	1
2	S-2	カクラン	埴輪	円筒埴輪(基部)	-	-	-	内面:オサエ 外面:タテハケ	2
3	S-3	カクラン	埴輪	円筒埴輪(突帯部)	-	-	-	内面:ナデ 外面:突帯部ヨコナデ、体部タテハケ	3
4	A-1	Ⅲ~Ⅴ層	縄文土器	鉢	-	-	-	内面:ナデ 外面:短節縄文(RL)	4
5	A-2	カクラン	縄文土器	鉢	-	-	-	内面:ミガキ 外面:短節縄文(RL)	5

第3図 出土遺物



出土遺物

写真図版 1



1 遺構検出状況（北から）



2 遺構完掘状況（東から）



3 北壁断面（南から）

VII 鳥居塚古墳第5次発掘調査報告

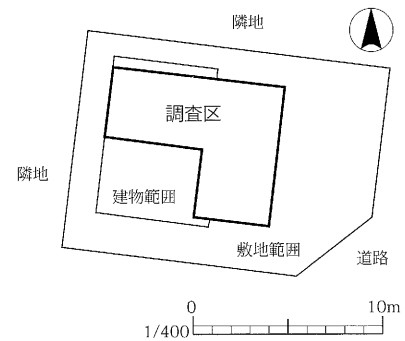
1 調査要項

遺跡名	鳥居塚古墳（宮城県遺跡番号01322）
調査地点	仙台市太白区大野田字王ノ檀1-1、4、5、22-1、3、字宮23-1、2、3、道路、水路、堤の各一部
調査期間	平成22年9月13日～17日
調査対象面積	72.51㎡
調査面積	42.5㎡
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係
担当職員	主事 猪狩俊哉 文化財教諭 吉野 信

2 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成22年8月18日付で申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して、文化財保護法第93条（H22教生文第114-121号で回答）に基づき実施した。調査は平成22年9月13日に着手し、遺構が検出されたため、引き続き本発掘調査を実施した。住宅建築範囲内に、L字形の調査区を設定した。重機により盛土およびⅠ・Ⅱ層を除去後、遺構の有無を確認しながら人力によりⅢ～Ⅳ層を掘下げ、Ⅴ層上面で遺構検出作業を行い、鳥居塚古墳の周溝とピット5基を検出した。

適宜、平面・断面図（S=1/20）を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。



第1図 調査区配置図

3 基本層序

- Ⅰ層：褐色粘土質シルト（10YR 4/4）。旧耕作土か。厚さ10～20cm程度である。
- Ⅱ層：暗褐色粘土質シルト（10YR 3/3）。調査区南側で確認した。
- Ⅲa層：黄褐色砂質シルト（10YR 5/6）。厚さ15cm程度である。
- Ⅲb層：褐色砂質シルト（7.5YR 4/3）。厚さ15～30cm程度である。
- Ⅳa層：暗褐色粘土質シルト（10YR 3/3）。厚さ20cm程度である。
- Ⅳb層：黒褐色粘土質シルト（10YR 2/3）。厚さ20cm程度である。
- Ⅳc層：暗褐色粘土質シルト（10YR 3/3）。
- Ⅴ層：にぶい黄褐色粘土質シルト（10YR 4/3）。遺構検出面である。

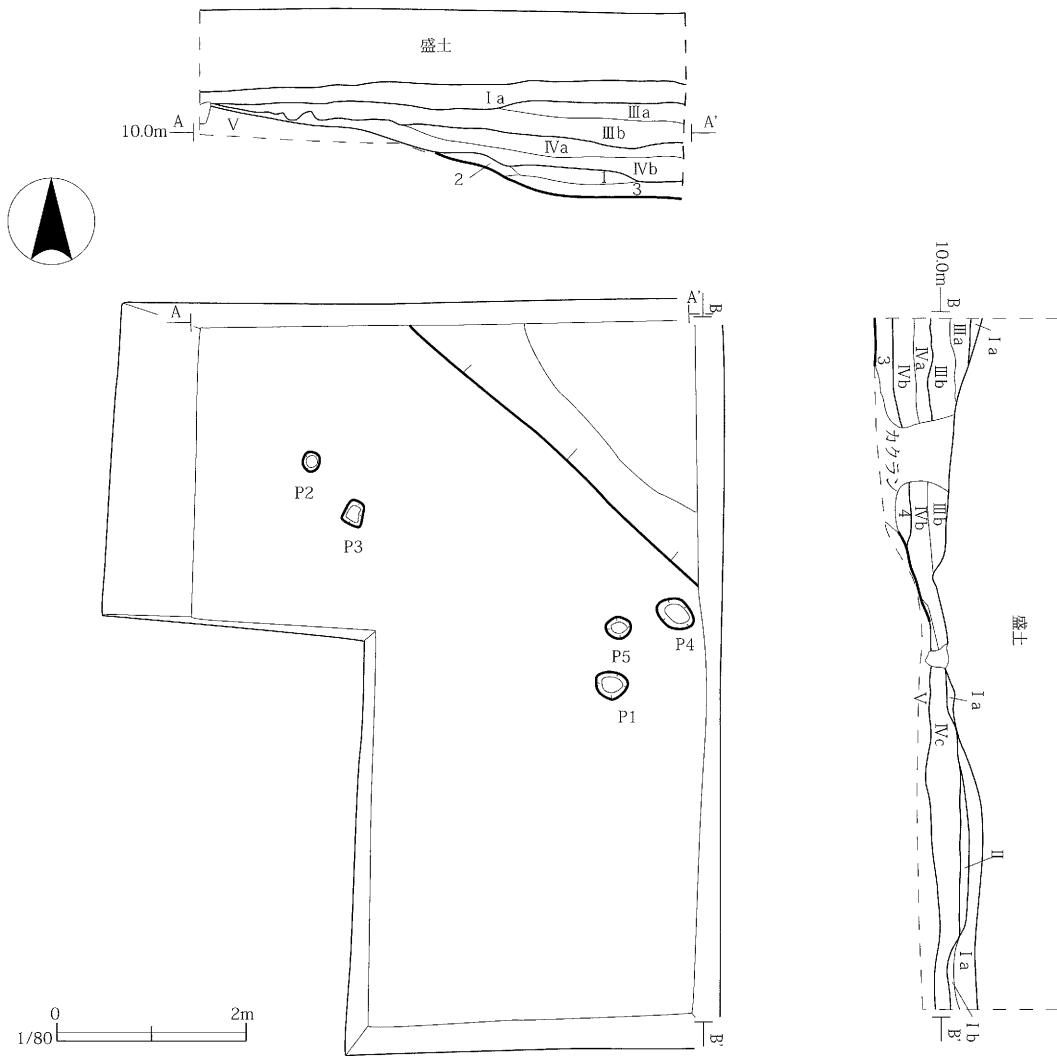
4 発見遺構と出土遺物

Ⅴ層上面で、鳥居塚古墳の周溝とピット2基を検出した。

1) 鳥居塚古墳周溝

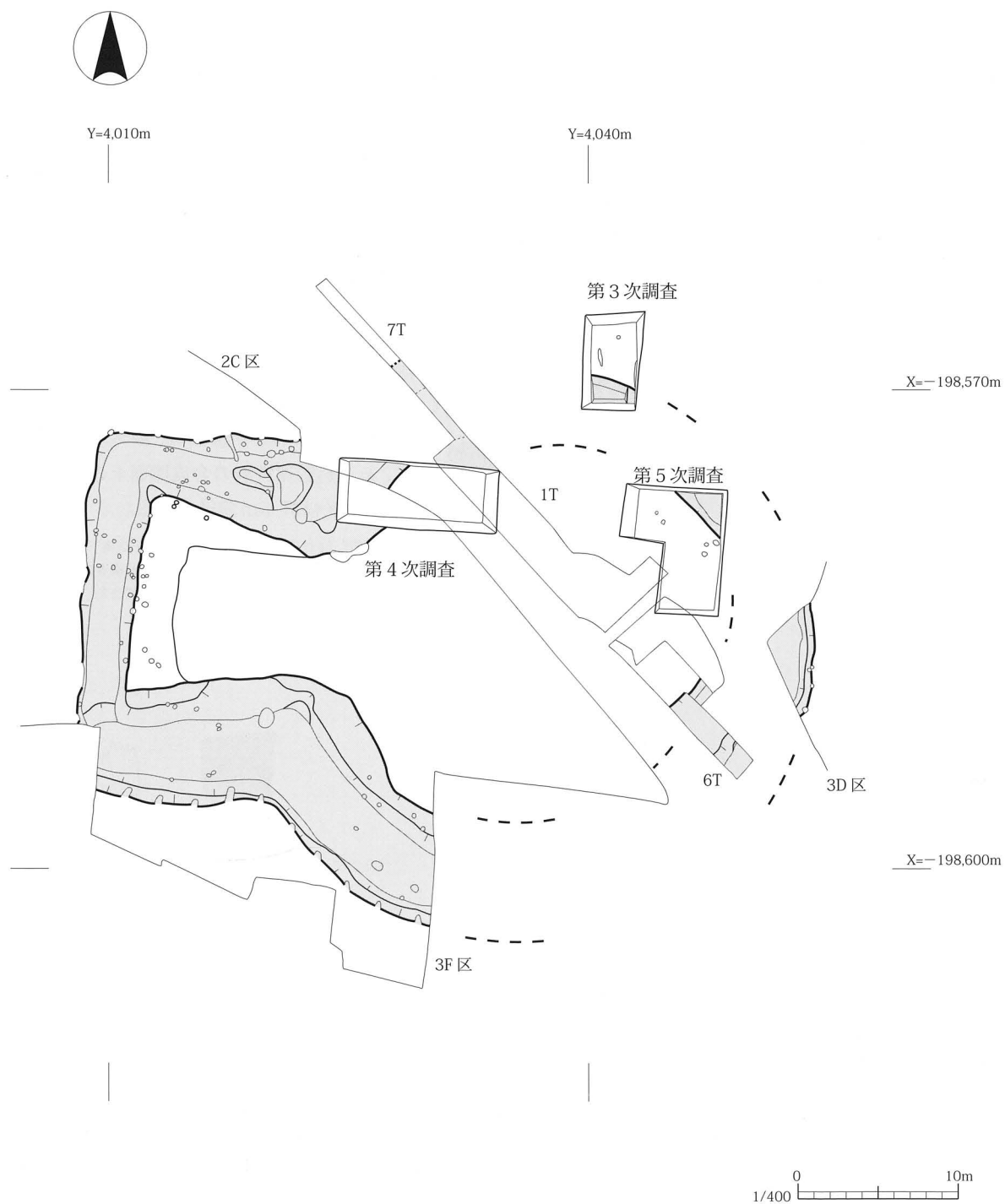
調査区北東端部で検出された。検出長は約4.2mである。規模は、上端幅2m以上、下端幅1.4m以上、深さ約60cmである。内縁の壁は、底面からやや急角度をもって立ち上がる。周溝内には、基本層Ⅳa・Ⅳb層が堆積し、それより下位の堆積土は暗褐色～黒褐色の粘土質シルトの4層に細分され、いずれも自然堆積土と考えられる。

遺物は、堆積土から埴輪片が14点出土した（第4図）。



層位・遺構	土色・土質	しまり	粘性	混入物等	備考	
I	10YR4/4褐色粘土質シルト	あり	あり	斑状に酸化鉄を含む	旧耕作土	
II	10YR3/3暗褐色粘土質シルト	あり	あり			
III a	10YR5/6黄褐色砂質シルト	あり	ややあり	下位に灰白色火山灰粒を含む	4次調査 III a層に対応	
III b	7.5YR4/3褐色砂質シルト	あり	あり	全体に灰白色火山灰粒を含む	4次調査 III b層に対応	
IV a	10YR3/3暗褐色粘土質シルト	あり	あり			
IV b	10YR3/3暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	底面に凹凸あり	4次調査 IV a層に対応	
IV c	10YR3/3暗褐色粘土質シルト	あり	あり			
V	10YR4/3にぶい黄褐色粘土質シルト	ややあり	あり			
古墳周溝	1	7.5YR3/2黒褐色粘土質シルト	あり	あり	黄褐色砂をまばらに含む	周溝堆積土
	2	10YR3/4暗褐色粘土質シルト	あり	あり	V層砂を多量含む	
	3	7.5YR3/3暗褐色粘土質シルト	ややあり	あり	グライ化する	
	4	7.5YR3/3暗褐色粘土質シルト	ややあり	あり	炭化物を微量含む	
P1	10YR3/4暗褐色粘土質シルト	あり	あり	V層ブロックを若干含む		
P2	10YR3/4暗褐色粘土質シルト	あり	あり	V層ブロックを若干含む		
P3	10YR3/4暗褐色粘土質シルト	あり	あり	V層ブロックを若干含む		
P4	10YR3/4暗褐色粘土質シルト	あり	あり	V層ブロックを若干含む		
P5	10YR3/4暗褐色粘土質シルト	あり	あり	V層ブロックを多く含む		

第2図 平面・断面図



※仙台市文化財調査報告書第243集を基に、合成、加筆
第3図 既調査区と今回調査区

2) ピット

5基検出した。柱痕跡等は確認されず、建物を構成するようなピットや、有意な配列のピットは検出されなかった。平面形は円形、楕円形、不整形である。規模は、直径20～40cmで、検出面からの深さは12～26cmである。堆積土は単層で、暗褐色粘土質シルトを主体とし、にぶい黄褐色粘土質シルトをブロック状に含んでいる。遺物は出土していない。

5 まとめ

今回の調査では、鳥居塚古墳の周溝を検出した。
検出位置から、後円部北東側の周溝（内縁）と考えられる。

6 第3～5次調査の成果

今回の3次にわたる調査地点は、鳥居塚古墳の後円部に当たる。各調査で、周溝の一部を検出した。

第1、2次調査では、後円部については主に周溝の南側の検出であったが、今回は後円部の北東・北・北西部の周溝を検出し、調査した。

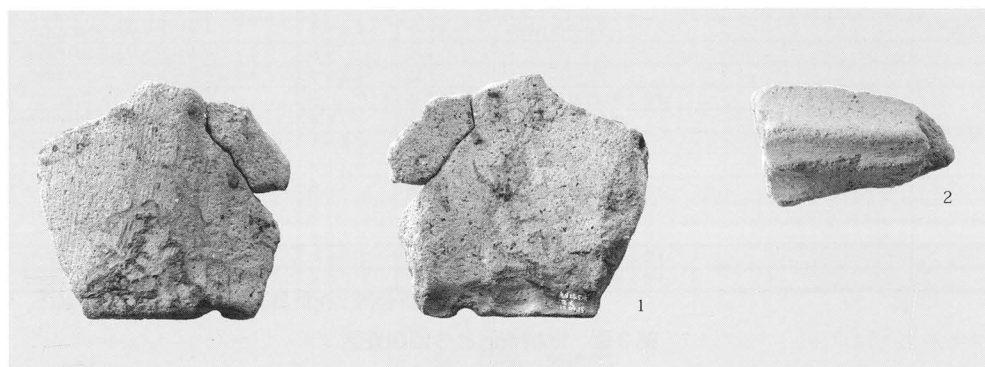
今回の調査と既調査の成果(*)をあわせると、第3図のとおりとなる。今回の調査では、平面図は、隣地境界線等を基準に作製し、国家座標を基準とした計測は行っていないが、前方後円墳である鳥居塚古墳の合成図面上の全長は周溝外縁で45.6m、後円部外縁径は36.0mである。また、推定される周溝内縁の全長は37.5m前後となる。

※ 仙台市教育委員会1987『大野田古墳群 春日社古墳・鳥居塚古墳発掘調査報告書』仙台市文化財調査報告書第108集
仙台市教育委員会2000『大野田古墳群・王ノ壇遺跡・六反田遺跡—仙台市富沢駅周辺区画整理事業関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ—』仙台市文化財調査報告書第243集



図中 番号	登録 番号	遺構名	出土 層位	種別	器種	法量			特徴・備考	写真 図版
						器高	口径	底径		
1	S-1	周溝		埴輪	円筒埴輪(基部)	-	-	-	内面:ナデ、底部指オサエ 外面:ハケメ	1
2	S-2	周溝		埴輪	円筒埴輪(突帯部)	-	-	-	内面:ナデ 外面:ヨコナデ	2

第4図 出土遺物



出土遺物

写真図版1

1 遺構検出状況（南から）



2 周溝完掘状況（南から）



3 北壁断面（南から）



写真図版 2

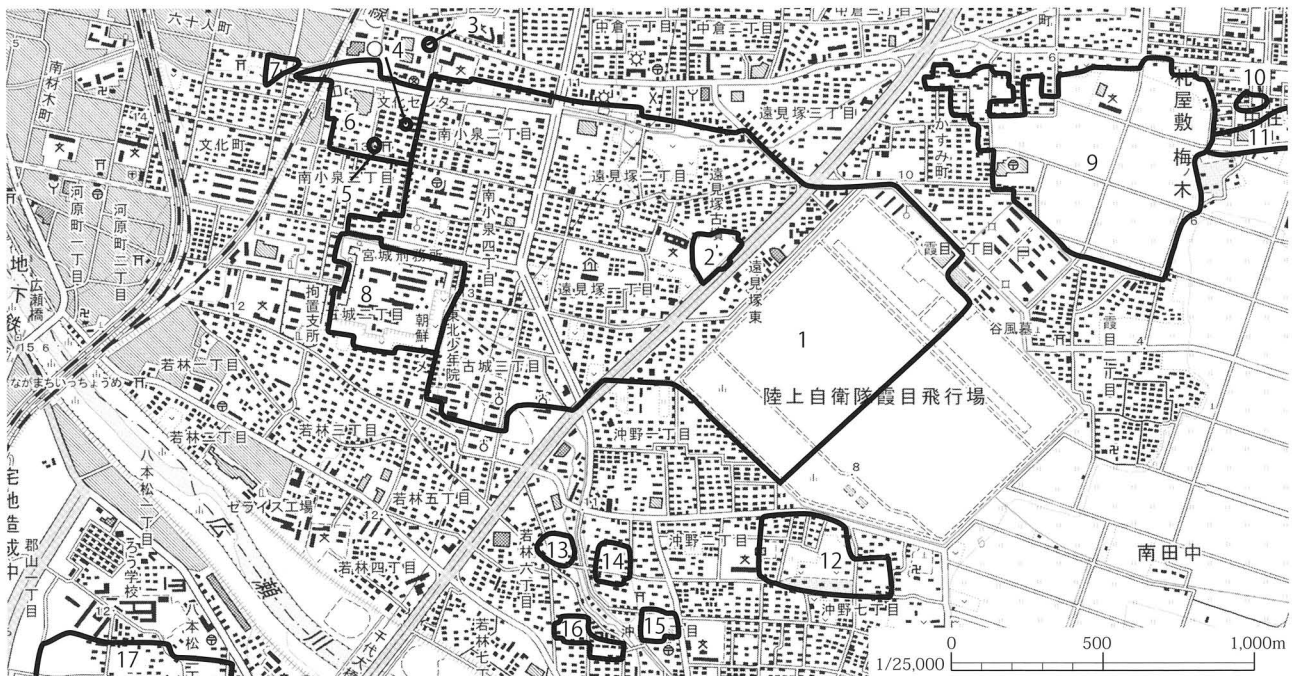
Ⅷ 南小泉遺跡第64次発掘調査報告

1 調査要項

遺跡名	南小泉遺跡（宮城県遺跡登録番号01021）
調査地点	仙台市若林区遠見塚一丁目37-8
調査期間	平成22年10月18～19日
調査対象面積	72.5㎡
調査面積	24㎡
調査原因	個人住宅建築工事
調査主体	仙台市教育委員会
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係
担当職員	主事 廣瀬真理子 文化財教諭 鈴木健弘

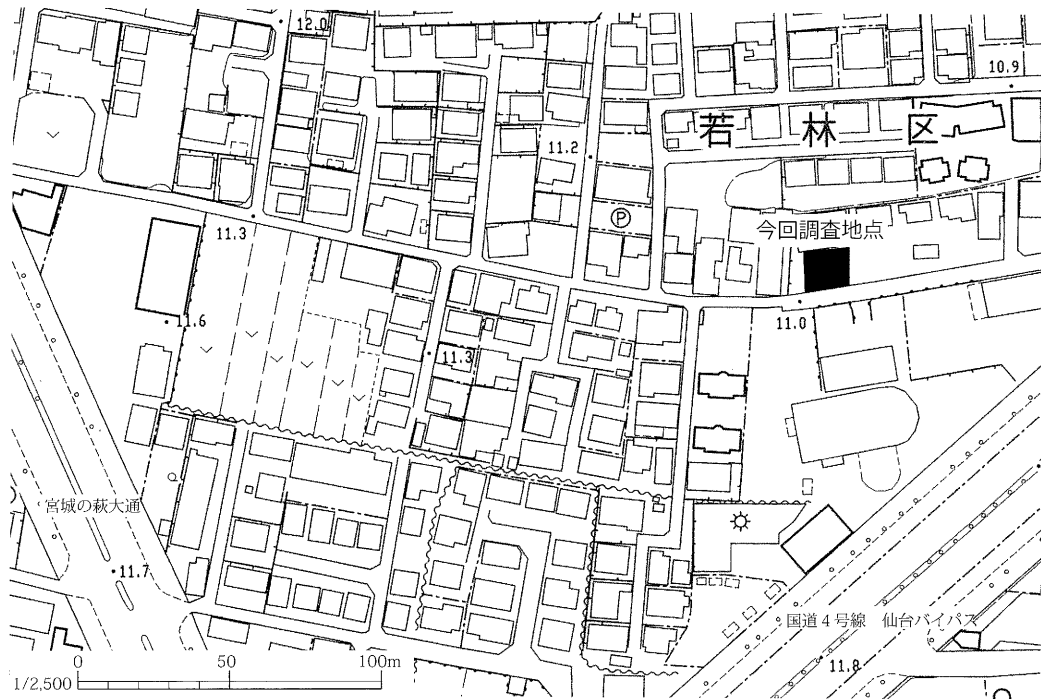
2 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、平成22年9月27日付で申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して、文化財保護法第93条発掘届（H22教生文第114-159号で回答）に基づき実施した。確認調査は平



番号	遺跡名	種別	立地	時代
1	南小泉遺跡	集落跡・屋敷跡	自然堤防	縄文～近世
2	遠見塚古墳	前方後円墳	自然堤防	古墳(前期)
3	法領塚古墳	円墳	自然堤防	古墳(終末期)
4	蛇塚古墳	円墳?	自然堤防	古墳(後期)
5	猫塚古墳	円墳?	自然堤防	古墳(後期)
6	養種園遺跡	城館跡	自然堤防	古代、中世、近世
7	保春院前遺跡	集落跡	自然堤防	古代、中世、近世
8	若林城跡	城館跡・円墳・集落跡	自然堤防	古墳、平安～近世
9	仙台東郊奈里跡	奈里遺構	後背湿地	古代
10	中在家遺跡	包含地	後背湿地	不明
11	中在家南遺跡	集落跡・河川跡	自然堤防	弥生～中世
12	沖野城跡	城館跡	自然堤防	中世
13	砂押Ⅰ遺跡	散布地	自然堤防	古墳、古代
14	神柵遺跡	官衙関係	自然堤防	古代
15	中柵西遺跡	散布地	自然堤防	弥生、古墳、古代
16	砂押Ⅱ遺跡	散布地	自然堤防	古墳、古代
17	郡山遺跡	官衙跡、寺院跡、包含地	自然堤防・後背湿地	縄文後・晩、弥生中、古墳(末期)、奈良(初期)

第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

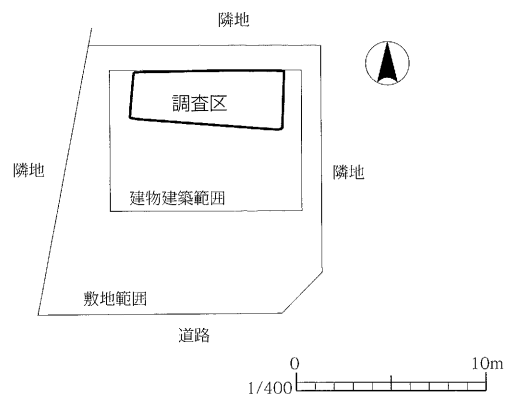


第2図 調査地点の位置

成22年10月18日に着手し、遺構が検出されたため、引き続き本発掘調査を実施した。建築範囲内に、南北3.0m×東西8.0mの調査区を設定した。重機により盛土およびI層を除去後、II層上面で遺構検出作業を行い、溝跡2条、ピット1基を検出した。適宜、平面・断面図（1/20、1/50）を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。

3 遺跡の位置と環境

南小泉遺跡は、仙台市の東部、JR仙台駅から東南約3.5kmの地点に位置する。広瀬川と名取川の合流地点より北へ約3kmの場所にあり、「宮城野海岸平野」と呼ばれる沖積平野の自然堤防上に立地する。標高は、遺跡西側で約13m、東側で約7.5mの西高東低の地形である。



第3図 調査区配置図

遺跡の範囲は、東西約2km、南北約1kmに及んでおり、

仙台市内でも最大級の規模を持つ遺跡である。遺跡内には遠見塚古墳を含み、また、南西部では若林城跡、北西部で養種園遺跡と接している。周辺には法領塚古墳、蛇塚古墳、猫塚古墳などが分布している。

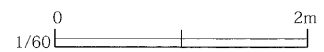
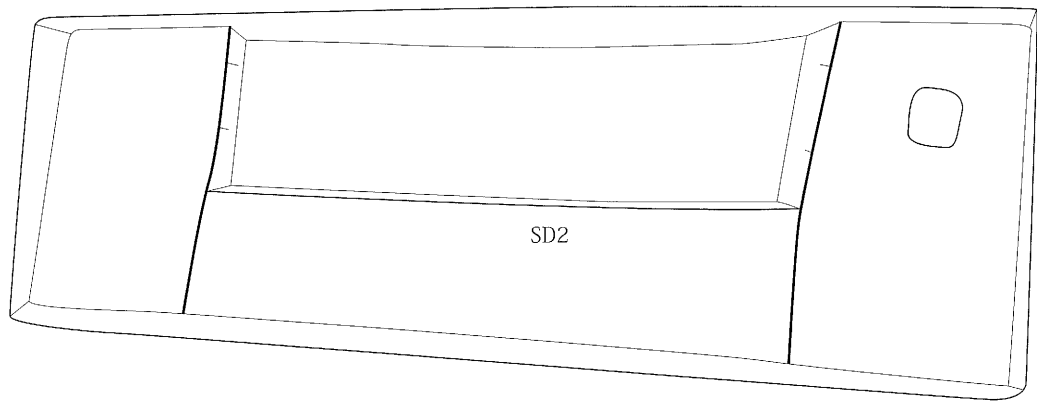
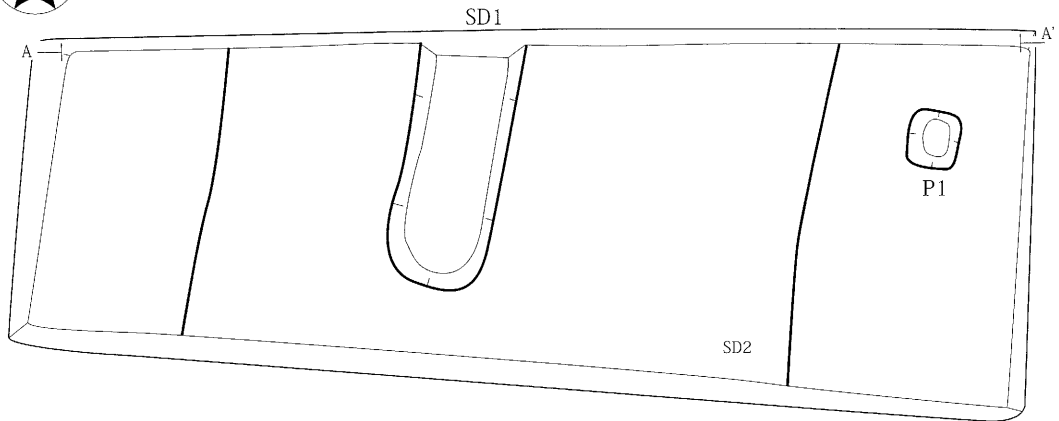
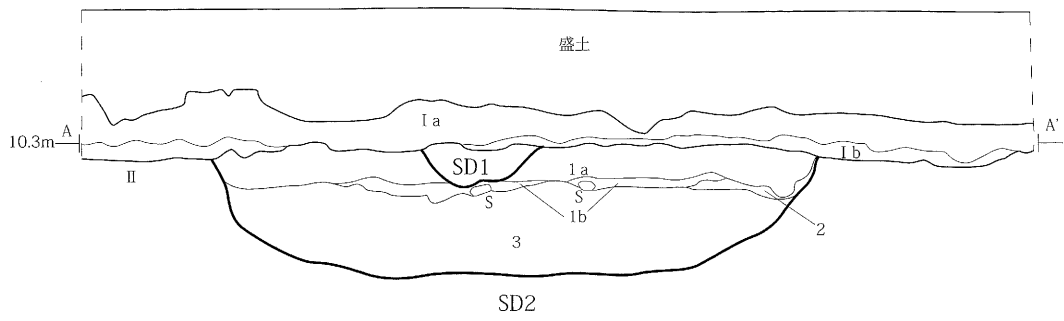
本遺跡は、これまでに63次の調査が実施されており、縄文時代から近世にかけての複合遺跡であることが判明している。特に、古墳時代中期（南小泉式ないし引田式期）では、60軒以上の竪穴住居跡の検出例があり、カマドが設けられた住居跡の他、カマドを持たない住居跡も発見され、この時期が炉からカマドへの移行期であったことが推定されている。

4 基本層序

I a層：暗褐色シルト（10YR 3/4）。盛土直下の旧畑耕作土である。厚さ20～40cmである。

I b層：暗褐色シルト（10YR 3/4）。II層をブロック状に比較的多く含む。旧畑耕作土である。厚さ5～15cmである。

II層：褐色砂質シルト（10YR 4/4）。遺構検出面である。



層位・遺構	土色・土質	しまり	粘性	混入物等	備考	
I a	10YR 3/4 暗褐色シルト	ややあり	ややあり	均質	旧畑耕作土	
I b	10YR 3/4 暗褐色シルト	ややあり	ややあり	II層をブロック状に比較的多く含む		
II	10YR 4/4 褐色砂質シルト	ややあり	ややあり	砂質味強い	遠構検出面	
SD 1	10YR 3/3 暗褐色砂質シルト	ややあり	ややあり	炭化物ごく少量含む	人為的埋土	
SD 2	1 a	10YR 4/3 にぶい黄褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり		灰黄褐色粘土質シルトの粒をごく少量含む
	1 b	10YR 4/3 にぶい黄褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり		黒褐色粘土質シルトのブロックを多量、褐色シルトの粒を多量、炭化物をごく少量、含む
	2	10YR 3/4 暗褐色砂質シルト	ややあり	ややあり		褐色シルトの粒〜ブロックを多量含む
	3	10YR 5/3 にぶい黄褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	しまりあるが、II層より弱い。砂質シルトを互層状に含む	自然堆積土
P 1	10YR 3/4 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	II層を粒状にごく少量含む		

第4図 平面・断面図

5 発見遺構と出土遺物

II層上面で、溝跡2条、ピット1基を検出した。

1) 溝跡

SD1溝跡

調査区中央で検出した、南北方向の溝跡である。SD2溝跡と重複し、それより新しい。検出長は約1.9mである。規模は、上端幅約0.9m、下端幅約0.6m、深さ約30cmを測る。断面形は浅い逆台形状で、底面は平坦である。堆積土は単層で、炭化物をごく少量含む暗褐色の砂質シルトである。

遺物は出土していない。

SD2溝跡

調査区中央で検出した、南北方向の溝跡である。SD1溝跡と重複し、それより古い。検出長は約2.7mである。規模は、上端幅約4.7m、下端幅約4.3m、深さ約100cmを測る。断面形は、逆台形を呈する。堆積土は3層に大別される。1層は、にぶい黄褐色の粘土質シルトで、灰黄褐色、黒褐色、褐色の粘土質シルトを含む。2層は褐色シルトの粒、ブロックを多量に含む、暗褐色の砂質シルトである。これらは、人為的埋土と見られる。3層は、にぶい黄褐色の粘土質シルトを主体とするが、砂質シルトを互層状に含み、自然堆積土と判断される。

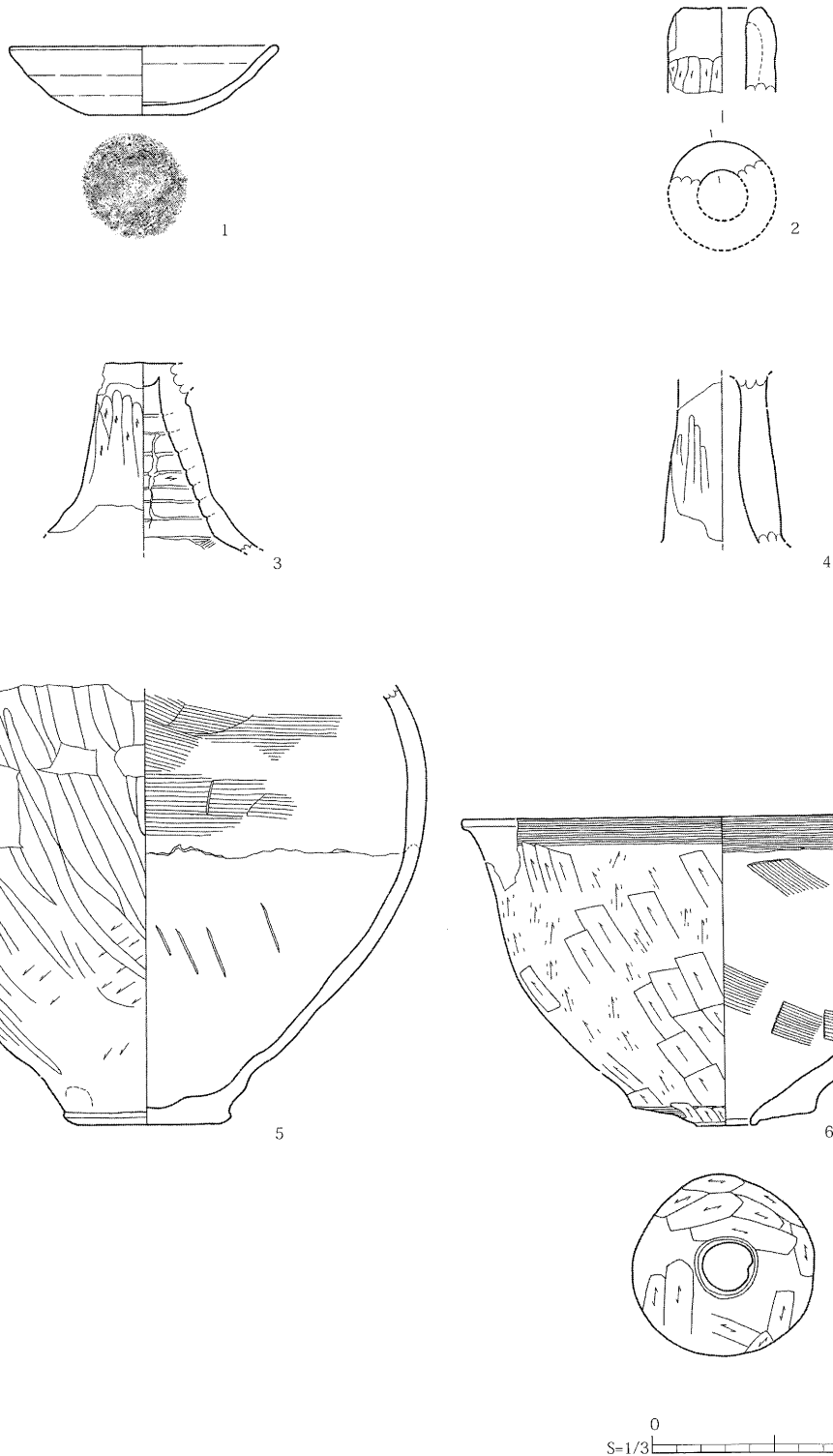
遺物は、1層では、ロクロ土師器坏・甕、須恵器坏・甕、赤焼土器坏（第5図-1）、土製品（第5図-2）などが出土している。3層では、土師器坏高坏（第5図-3、4）・甕（第5図-5）・甑（第5図-6）、その他土師器の小破片が多数出土しているが、すべて非ロクロ調整のものである。

6 まとめ

今回の調査地点は、南小泉遺跡の中央南部に位置する。

今回の調査では、溝跡2条、ピット1基を検出した。

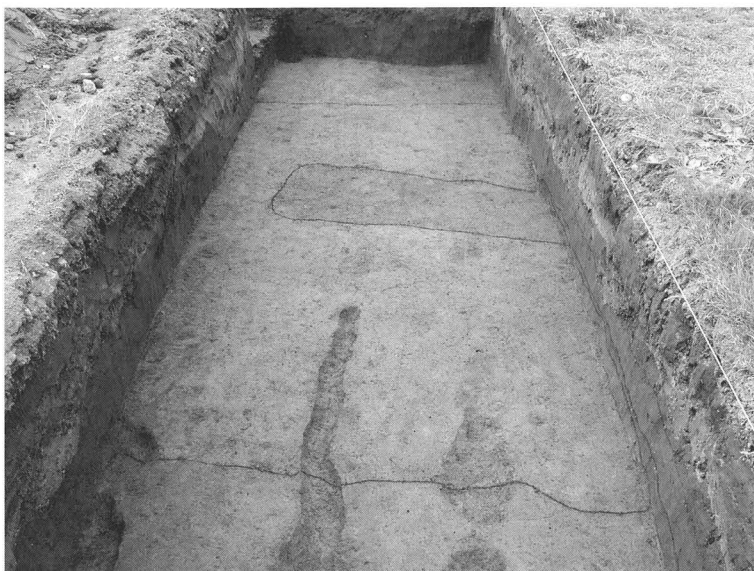
SD2溝跡は、1、2層の人為的埋土と3層の自然堆積層とに大別される。自然堆積層（3層）からは、非ロクロ土師器が出土しており、ロクロ調整のものは確認できなかった。3層出土の土器類は、古墳時代中期の南小泉式期を中心とする土器群と考えられる。一方、人為的埋土である1層からは、ロクロ土師器や赤焼土器などが出土している。したがって、SD2溝跡は、5世紀中期頃から徐々に堆積し、その後、概ね10世紀代に埋められたものと考えられる。溝跡の性格については、調査区の制約もあり、今後の検討課題である。



図中 番号	登録 番号	遺構名	出土 層位	種別	器種	法量 (cm)			特徴・備考	写真 図版
						器高	口径	底径		
1	D-1	SD2	1	赤焼土器	杯	2.8	11.0	4.1	内面:ロクロナデ 外面:ロクロナデ、底部切り離し:回転糸切り	2-1
2	P-1	SD2	1	土製品	フイゴ・羽口	外径:4.4 内径:2.0			内面:被熱により赤変 外面:ヘラケズリ	2-2
3	C-1	SD2	3	非ロクロナデ土師器	高杯	(7.6)	-	(8.6)	内面:裾部ハケメ、ヘラケズリ 外面:ヘラケズリ→ヘラミガキ	2-3
4	C-2	SD2	3	非ロクロナデ土師器	高杯	(7.2)	-	-	外面:ヘラケズリ→ヘラミガキ	2-4
5	C-4	SD2	3	非ロクロナデ土師器	甕	(17.8)	-	6.6	内面:体部上半ヘラナデ、体部下半ヘラナデか 外面:ヘラケズリ→ヘラミガキ、体部下端に指圧痕あり	2-5
6	C-3	SD2	3	非ロクロナデ土師器	甕(単孔式)	21.2	7.4	12.7	内面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ 外面:口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、体部下半ヨコナデ→ヘラケズリ、底部ヘラケズリ	2-6

第5図 出土遺物

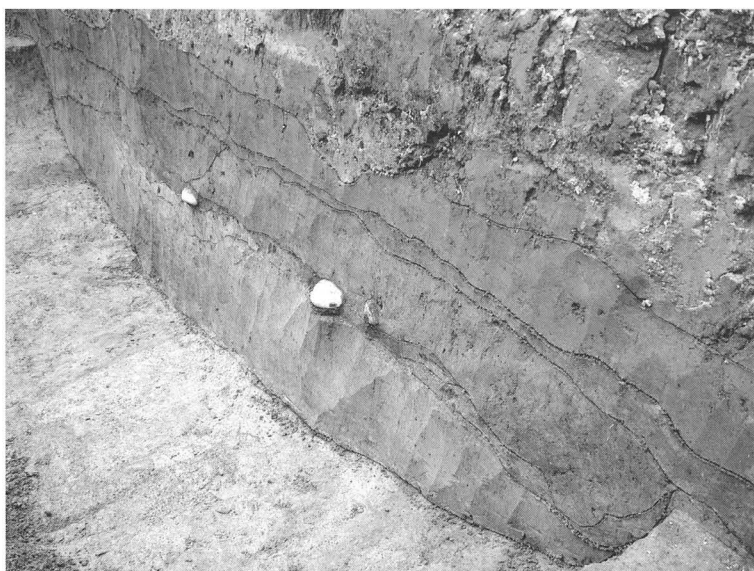
1 遺構検出状況（東から）



2 SD2 溝跡完掘状況（南西から）



3 SD2 溝跡断面（南東から）



写真図版 1



写真図版 2

IX 大野田官衙遺跡第3～6次発掘調査報告

1 調査要項

遺跡名	大野田官衙遺跡（宮城県遺跡登録番号01566）		
調査地点	仙台市太白区 富沢駅周辺土地区画整理事業地内		
	第3次	大野田字竹松9-1、14-1	
		（平成22年4月6日届出、H22教生文第114-87号回答）	
	第4次	大野田字竹松8-1、8-4、8-6、8-9の各一部	
		（平成22年6月25日届出、H22教生文第114-63号回答）	
	第5次	大野田字竹松20-5他	
		（平成22年8月3日届出、H22教生文第114-108号回答）	
	第6次	大野田字竹松9-1の一部	
		（平成22年8月19日届出、H22教生文第114-113号回答）	
調査期間	第3次：平成22年8月3、4日	第4次：8月30、31日	第5次：8月31日、9月1日
	第6次：9月1、2日		
調査面積 （調査対象面積）	第3次：25.5㎡（69.56㎡）	第4次：24㎡（120.65㎡）	
	第5次：24㎡（79.0㎡）	第6次：16.5㎡（49.2㎡）	
調査原因	個人住宅建築工事		
調査主体	仙台市教育委員会		
調査担当	仙台市教育局生涯学習部文化財課調査調整係		
担当職員	主事 廣瀬真理子	文化財教諭 鈴木健弘	

2 調査に至る経過と調査方法

今回の調査は、申請者より提出された、個人住宅建築工事に伴う「埋蔵文化財発掘の届出について」に対して、文化財保護法第93条に基づき実施した。確認調査を実施したところ、各調査区で遺構が検出されたため、引き続き本発掘調査を実施した。調査区は、いずれの調査も住宅建築範囲内に設定した。

適宜、平面・断面図（S=1/20、1/50）を作製し、デジタルカメラを用いて記録写真を撮影した。なお、調査区の位置については、23頁第1図に示した。

3 遺跡の位置と環境

大野田官衙遺跡は、仙台市の南東部、仙台市営地下鉄富沢駅から北東約0.4kmの地点に位置する。名取川の北側にあり、郡山低地と呼ばれる名取川とその支流の策川により形成された自然堤防と後背湿地上に立地する。

大野田官衙遺跡周辺は、大野田古墳群、六反田遺跡などの遺跡が密集する地域である。

当遺跡は、規則的に配置され、規格性のある大型建物跡とそれを囲む溝跡からなる古代の官衙跡である。これまで「富沢駅周辺土地区画整理事業」に伴い発掘調査が進められてきたが、古代官衙跡としての遺構の全容を把握するための調査や遺構配置を想定した調査を平成20年度から実施するようになり、平成21年7月に大野田古墳群、六反田遺跡、袋前遺跡のうち、官衙を区画する溝跡に囲まれた部分を大野田官衙遺跡として登録している。

4 基本層序

I層：盛土直下の旧水田耕作土である。地点によって2層に細分される。

IV層：古代遺構の検出面である。

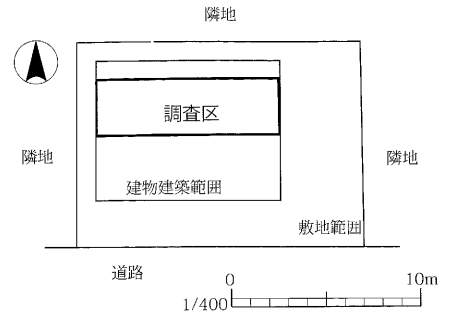
V層：古代遺構の検出面である。

当遺跡周辺に堆積するII、III層は、いずれの調査区でも確認されなかった。

5 発見遺構と出土遺物

1) 第3次調査

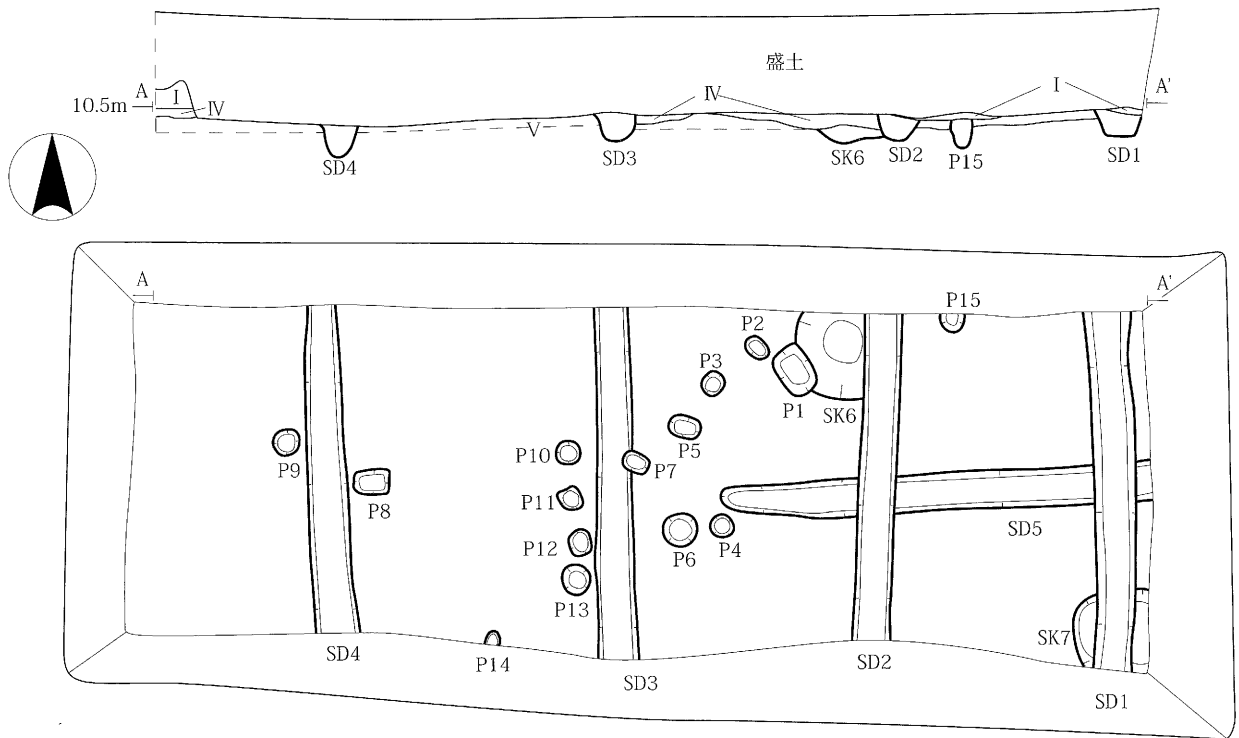
溝跡5条、土坑2基、ピット15基を検出した。今回の調査で検出した遺構は、V層上面まで掘り下げ検出したが、壁断面の観察によりSD1～3溝跡はIV層上面からの掘り込みであること、SK6土坑はIV層に覆われていることが確認された。その他の遺構については盛土直下のV層上面が検出面である。



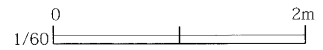
第1図 第3次調査 調査区配置図

(1) 溝跡

5条検出した溝跡のうちSD1溝跡～SD4溝跡は小溝状遺構群の一部であると考えられる。



層位	土色・土質	しまり	粘性	備考
I	7.5Y4/1 灰色粘土質シルト	ややあり	ややあり	旧水田耕作土
IV	10Y2/3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	部分的に確認
V	10YR5/3 におい黄褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	



遺構	土色・土質	粘性	しまり	混入物等	検出長	規模		
						上端幅(短径)	下端幅(短径)	深さ
SD1	10YR3/4 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	褐色シルトの粒、マンガン粒を多量含み、白色シルトの粒をごく少量含む	2.8	35	20	20
SD2	10YR2/3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	マンガン粒を少量含む	2.6	30	18	20
SD3	10YR3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	黄褐色粘土質シルトのブロックを多量、マンガン粒を少量含む	2.8	34	16	25
SD4	10YR3/4 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	黄褐色粘土質シルトのブロックを下層に多量含む	2.6	28	20	26
SD5	10YR3/4 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	黄褐色粘土質シルトのブロックを多量、マンガン粒を少量含む	3.4	36	20	14
SK6	10YR3/4 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	黄褐色シルトのブロックを多量含む		70	(68)	20
SK7	10YR4/4 褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	マンガン粒を多量含む		(65)	(60)	16

単位:検出長m 規模cm

遺構	土色・土質	粘性	しまり	混入物等	径	深さ	遺構	土色・土質	粘性	しまり	混入物等	径	深さ		
P1	10YR3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり		40	× 30	18	P9	10YR2/3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	灰白色火山灰粒を少量含む	20	× 19	19
P2	10YR3/4 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり		19	× 15	25	P10	10YR3/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	灰白色火山灰粒を少量含む	19	× 19	50
P3	10YR3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	褐色シルトの粒を少量含む	18	× 17	24	P11	10YR3/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	灰白色火山灰粒を少量含む	17	× 16	29
P4	10YR3/4 暗褐色粘土質シルト	あり	ややあり		18	× 15	25	P12	10YR3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	灰白色火山灰粒をごく少量含む	20	× 16	20
P5	10YR3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり		25	× 18	26	P13	10YR4/4 褐色粘土質シルト	あり	ややあり	黄褐色シルトのブロックを多量含む	25	× 22	12
P6	10YR3/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり		27	× 25	12	P14	10YR3/4 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり		13	× (10)	12
P7	10YR4/4 褐色粘土質シルト	やや強い	ややあり		20	× 15	15	P15	10YR2/3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり		18	× (12)	14
P8	10YR2/3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり		27	× 19	35								

単位:cm

第2図 第3次調査 平面・断面図

小溝状遺構群1は、南北方向の遺構群で、SD1溝跡～SD4溝跡からなる。検出長は約2.6～2.8mである。規模は上端幅28～35cm、下端幅16～20cm、深さ20～26cmを測り、断面形はU字形を呈する。溝跡の間隔は、心々距離で1.9～2.2m程度である。遺物は、SD1溝跡からロクロ土師器甕片、内面を黒色処理したロクロ土師器坏片、SD2溝跡から土師器片、SD3溝跡から内面を黒色処理したロクロ土師器坏片がそれぞれ出土しているが、いずれも小片であり、時期等については不明である。

SD5溝跡は、東西方向の溝跡である。検出長は約3.4mである。上端幅36cm、下端幅20cm、深さ14cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。遺物は出土していない。

(2) 土坑

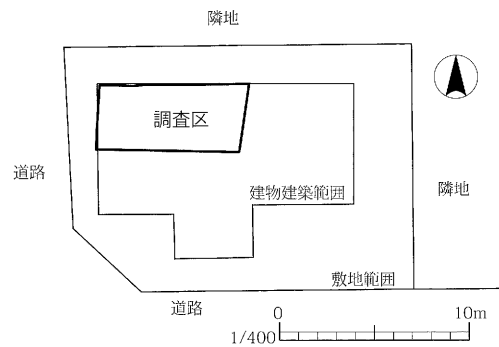
SK6土坑の規模は約70cm×68cm以上、深さ約20cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。土師器甕の小片が4点出土している。SK7土坑の規模は60cm以上×65cm以上、深さ16cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。遺物は出土していない。

(3) ピット

15基検出したが、建物跡を構成するような有意な配列は認められなかった。遺物は出土していない。

2) 第4次調査

溝跡6条、ピット1基を検出した。すべての遺構をV層上面で検出した。



第3図 第4次調査 調査区配置図

(1) 溝跡

SD1溝跡とSD2溝跡、SD5溝跡とSD6溝跡はそれぞれ同一の小溝状遺構群の一部であると考えられる。

小溝状遺構群1は、東西方向の遺構群である。SD1溝跡、SD2溝跡からなる。検出長は6.4～6.6mである。規模は上端幅23～48cm、下端幅18～30cm、深さ12～22cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。溝跡の間隔は、心々距離で1.2m程度である。遺物は出土していない。

小溝状遺構群2は、南北方向の遺構群である。SD5溝跡・SD6溝跡からなる。検出長は0.4～0.7mである。規模は上端幅24～32cm、下端幅20～26cm、深さ11～14cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。溝跡の間隔は、心々距離で1.6m程度である。遺物は出土していない。

SD3溝跡は、南北方向の溝跡である。検出長は約0.2mである。規模は上端幅38cm、下端幅28cm、深さ8cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。遺物は出土していない。

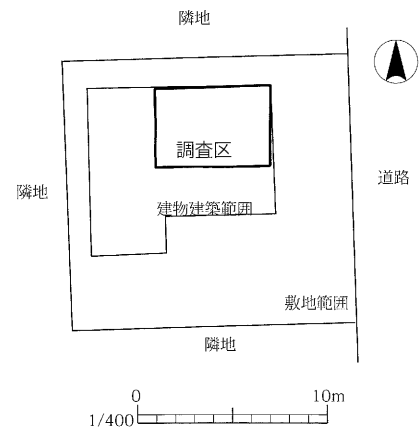
SD4溝跡は、南北方向の溝跡である。検出長は約0.3mである。規模は上端幅44cm、下端幅40cm、深さ2cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。遺物は出土していない。

(2) ピット

1基検出したが、柱痕跡等は確認できなかった。遺物は出土していない。

3) 第5次調査

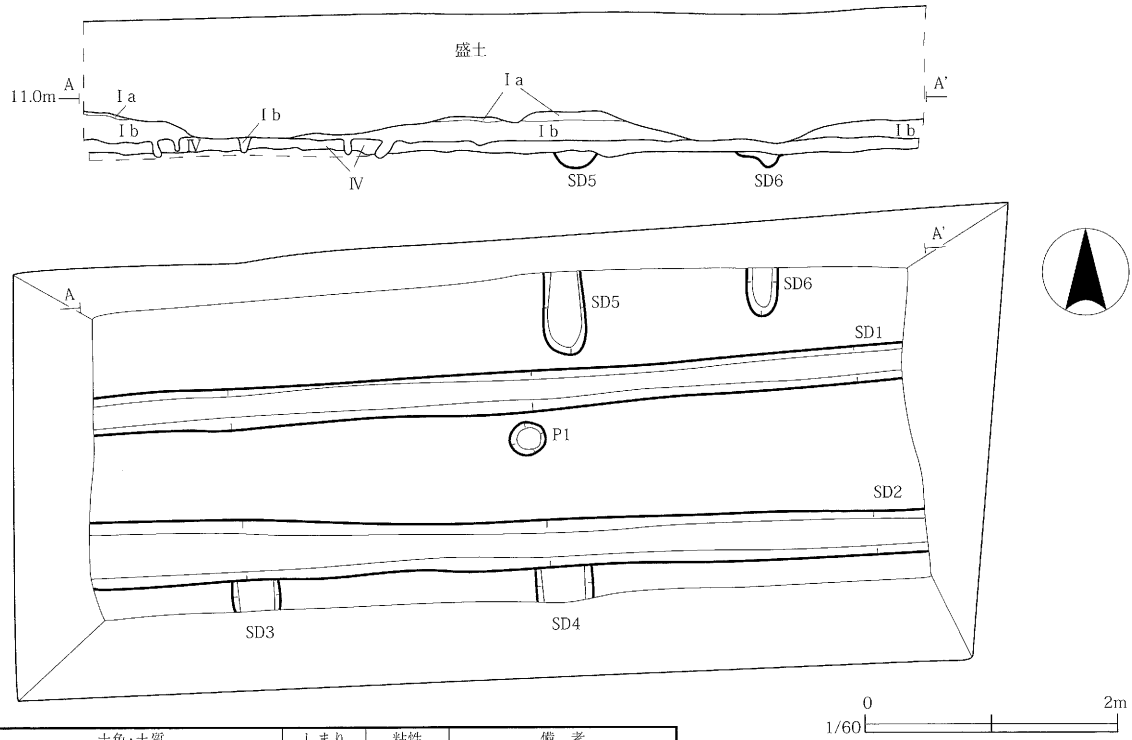
溝跡1条、ピット3基を検出した。すべての遺構を、盛土直下のV層上面で検出した。



第4図 第5次調査 調査区配置図

(1) 溝跡

SD1溝跡は、南北方向の溝跡である。検出長は約1.0mである。規模は

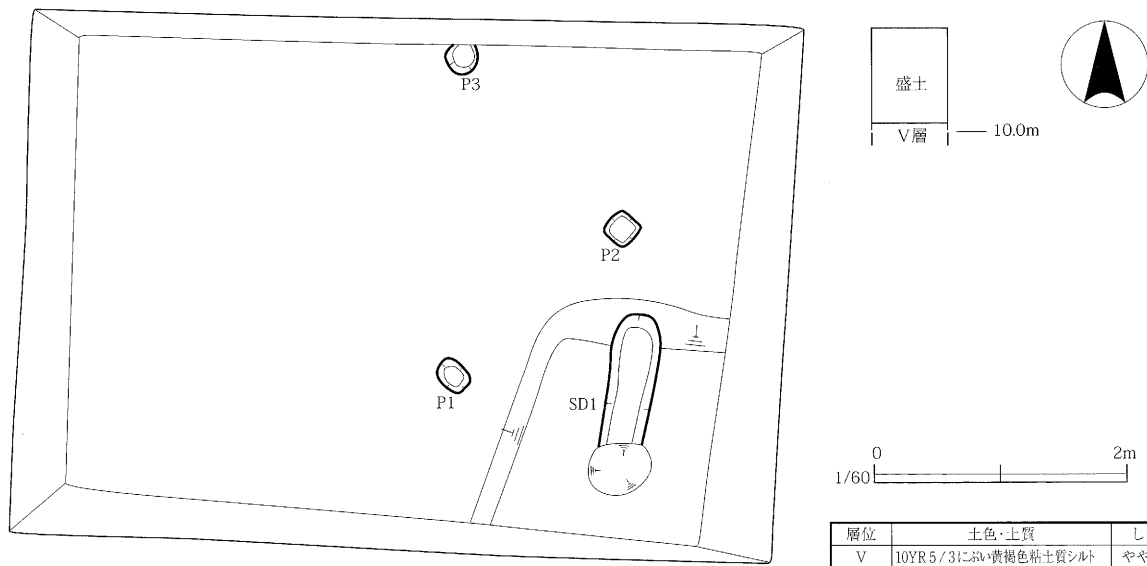


層位	土色・土質	しまり	粘性	備考
I a	5 Y 4 / 2 灰オリブ褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	旧水田耕作土
I b	2.5 Y 6 / 6 明黄褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	旧水田耕作土
IV	10 Y R 3 / 3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	
V	10 Y R 4 / 4 褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	

番号	土色・土質	粘性	しまり	混入物等	検出長	規模		
						上端幅(長径)	下端幅(短径)	深さ
SD 1	10 Y R 3 / 2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり		6.4	23	18	12
SD 2	10 Y R 3 / 2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり		6.6	48	30	22
SD 3	10 Y R 3 / 3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	褐色粘土質シルトの粒を少量含む	0.2	38	28	8
SD 4	10 Y R 3 / 3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	褐色粘土質シルトの粒をやや多く含む	0.3	44	40	2
SD 5	10 Y R 3 / 3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	褐色粘土質シルトの粒~ブロックを比較的多く含む	0.7	32	26	14
SD 6	10 Y R 3 / 3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	褐色粘土質シルトの粒~ブロックを比較的多く含む	0.4	24	20	11
P 1	10 Y R 3 / 3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	褐色粘土質シルトのブロックを多量含む		30	22	8

単位:検出長m 規模cm

第5図 第4次調査 平面・断面図



層位	土色・土質	しまり	粘性
V	10 Y R 5 / 3 に近い黄褐色粘土質シルト	ややあり	あり

遺構	土色・土質	しまり	粘性	混入物等	検出長	規模		
						上端幅(長径)	下端幅(短径)	深さ
SD 1	10 Y R 3 / 4 暗褐色粘土質シルト	ややあり	あり	V層ブロックを多量含む	1.0	35	20	9
P 1	10 Y R 3 / 3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層ブロックを少量含む		28	20	13
P 2	10 Y R 2 / 3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層の粒~ブロックを比較的多く含む		22	21	17
P 3	10 Y R 3 / 4 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	V層の粒をごく少量含む		(25)	25	17

単位:検出長m 規模cm

第6図 第5次調査 平面・断面図

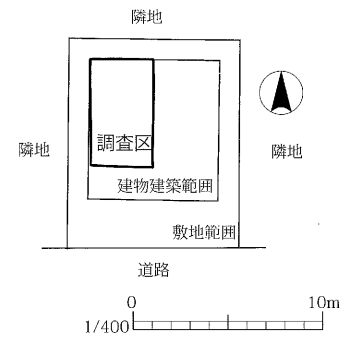
上端幅35cm、下端幅20cm、深さ9cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。遺物は出土していない。

(2) ピット

3基検出したが、建物跡を構成するような有意な配列は認められなかった。遺物は出土していない。

4) 第6次調査

溝跡6条を検出した。いずれも、IVb層上面での検出である。

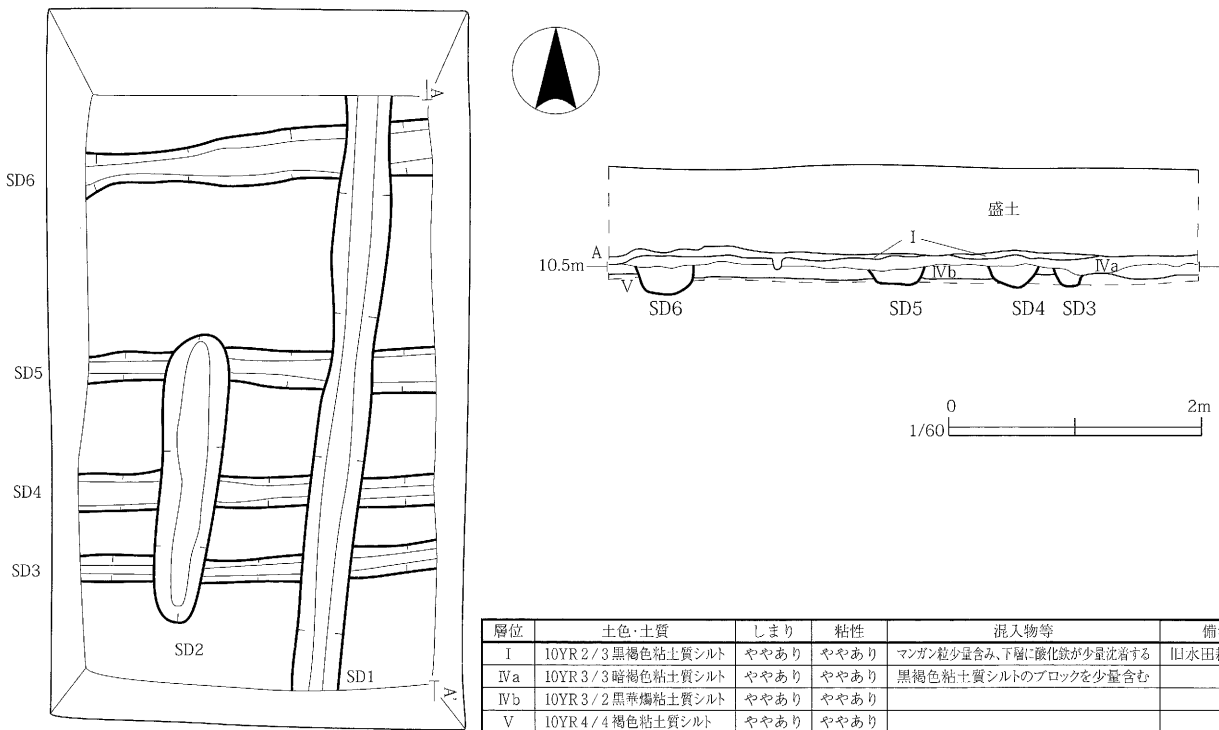


第7図 第6次調査 調査区配置図

小溝状遺構群1は、東西方向の遺構群である。SD3～6溝跡からなる。検出長は2.7～2.8mである。規模は上端幅20～45cm、下端幅8～23cm、深さ14～21cmを測り、断面形はU字状ないし逆台形状を呈する。溝跡の間隔は、心々距離で0.6～1.6m程度である。遺物は出土していない。

SD1溝跡は、南北方向の溝跡である。検出長は約4.7mである。規模は上端幅45cm、下端幅18cm、深さ21cmを測り、断面形はU字状を呈する。遺物は出土していない。

SD2溝跡は、南北方向の溝跡である。検出長は約2.3mである。規模は上端幅50cm、下端幅35cm、深さ14cmを測り、断面形は浅い皿状を呈する。遺物は出土していない。



遺構	土色・土質	粘性	しまり	混入物等	検出長	規模		
						上端幅(長径)	下端幅(短径)	深さ
SD1	10YR 2/3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	あり	褐色シルトの粒～ブロックを少量含む	4.7	45	18	21
SD2	10YR 2/3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	褐色シルトの粒をごく少量含む	2.3	50	35	14
SD3	10YR 3/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	褐色シルトの粒を少量含む	2.8	20	10	14
SD4	10YR 3/3 暗褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	鈍い黄褐色シルトの粒を多く含む	2.8	40	8	17
SD5	10YR 3/2 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり	褐色シルトの粒をごく少量含む	2.7	45	22	15
SD6	10YR 2/3 黒褐色粘土質シルト	ややあり	ややあり		2.7	45	23	21

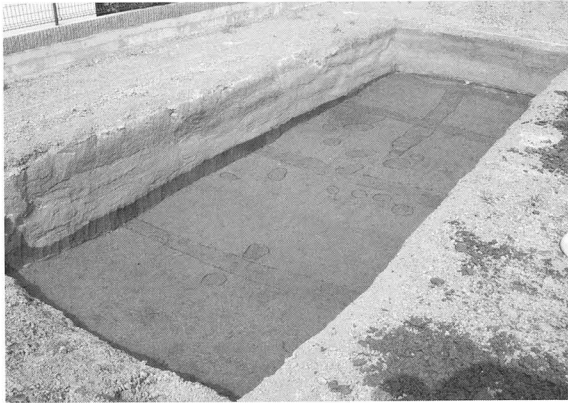
単位: 検出長m 規模cm

第8図 第6次調査 平面・断面図

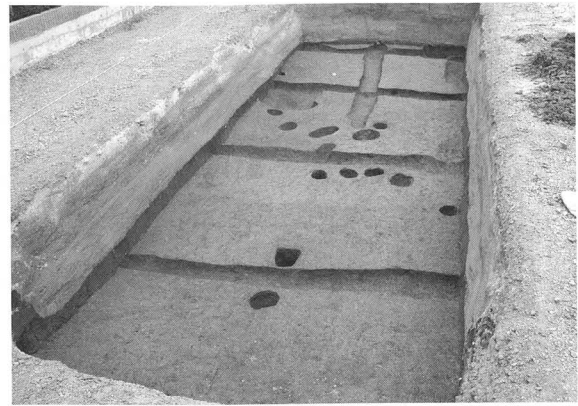
6 まとめ

各調査区で、小溝状遺構、溝跡、土坑、ピットなどを検出した。

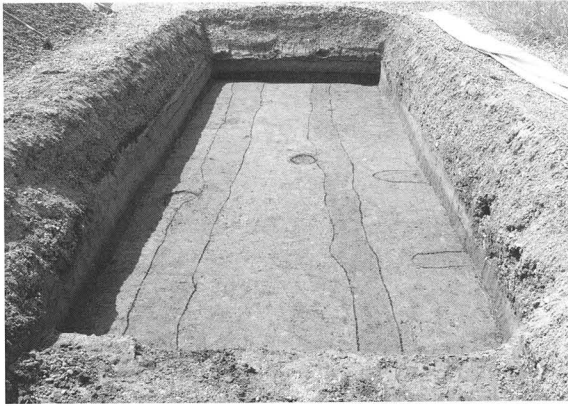
官衙に関連する遺構は検出されなかった。



1 3次調査 遺構検出状況（南西から）



2 3次調査 遺構完掘状況（西から）



3 4次調査 遺構検出状況（東から）



4 4次調査 遺構完掘状況（西から）



5 5次調査 遺構検出状況（南東から）



6 5次調査 遺構完掘状況（南東から）



7 6次調査 遺構検出状況（南東から）



8 6次調査 遺構完掘状況（南から）

写真図版 1

報 告 書 抄 録

ふりがな	せんだいへいやのいせきぐん							
書名	仙台平野の遺跡群							
副書名	平成22年度発掘調査報告書							
巻次	21							
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第392集							
編著者名	廣瀬真理子・吉野 信							
編集機関	仙台市教育委員会							
所在地	〒980-8671 宮城県仙台市青葉区二日町1-1 電話 022-214-8894							
発行年月日	平成23年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ろくたんたいせき 六反田遺跡 (6次)	せんだいしはいやくおのだあざろくたんだ 仙台市太白区大野田字六反田 27-6の一部、27-7の一部	4100	01189	38° 21' 77"	140° 87' 46"	2010・6・28 2010・7・2	21㎡	個人住宅 建築
ろくたんだいせき 六反田遺跡 (7次)	せんだいしはいやくおのだあざろくたんだ 仙台市太白区大野田字六反田 27-6、27-7、29、35-1の各一部	4100	01189	38° 21' 77"	140° 87' 44"	2010・7・7 2010・7・14	34㎡	個人住宅 建築
ろくたんたいせき 六反田遺跡 (8次)	せんだいしはいやくおのだあざろくたんだ 仙台市太白区大野田富沢駅周辺 とろくかひやくしちまろちひやく 土地区画整理事業地内6-1街区	4100	01189	38° 21' 80"	140° 87' 54"	2010・9・6 2010・9・10	15㎡	個人住宅 建築
とりづかこふん 鳥居塚古墳 (3次)	せんだいしはいやくおのだあざおのだん 仙台市太白区大野田字王ノ檀 1-1、1-2の各一部	4100	01361	38° 21' 39"	140° 87' 61"	2010・6・7 2010・6・9	22㎡	個人住宅 建築
とりづかこふん 鳥居塚古墳 (4次)	せんだいしはいやくおのだあざみや 仙台市太白区大野田字宮 15番4	4100	01361	38° 21' 39"	140° 87' 59"	2010・9・6 2010・9・13	40㎡	個人住宅 建築
とりづかこふん 鳥居塚古墳 (5次)	せんだいしはいやくおのだあざ 仙台市太白区大野田字 おのだん 王ノ檀1-1、ほか	4100	01361	38° 21' 38"	140° 87' 61"	2010・9・13 2010・9・17	42.5㎡	個人住宅 建築
みなみいづみいせき 南小泉遺跡 (64次)	せんだいしわかざしくとおみづか 仙台市若林区遠見塚 一丁目37-8	4100	01021	38° 23' 58"	140° 91' 11"	2010・10・18 2010・10・19	24㎡	個人住宅 建築
おのだかんがいせき 大野田官衙遺跡 (3次)	せんだいしはいやくおのだあざなけまつ 仙台市太白区大野田字竹松 9-1、14-1	4100	01566	38° 21' 59"	140° 87' 57"	2010・8・3 2010・8・4	25.5㎡	個人住宅 建築
おのだかんがいせき 大野田官衙遺跡 (4次)	せんだいしはいやくおのだあざなけまつ 仙台市太白区大野田字竹松 8-1、8-4、8-6、8-9の各一部	4100	01566	38° 21' 63"	140° 87' 54"	2010・8・30 2010・8・31	24㎡	個人住宅 建築
おのだかんがいせき 大野田官衙遺跡 (5次)	せんだいしはいやくおのだあざなけまつ 仙台市太白区大野田字竹松 20-5他	4100	01566	38° 21' 56"	140° 87' 61"	2010・8・31 2010・9・1	24㎡	個人住宅 建築
おのだかんがいせき 大野田官衙遺跡 (6次)	せんだいしはいやくおのだあざなけまつ 仙台市太白区大野田字竹松 9-1の一部	4100	01566	38° 21' 59"	140° 87' 56"	2010・9・1 2010・9・2	16.5㎡	個人住宅 建築
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
六反田遺跡 (6次)	集落跡	縄文～古代、近世		竪穴住居跡、 溝跡		土師器、須恵器		
六反田遺跡 (7次)	集落跡	縄文～古代、近世		掘立柱建物 跡		土師器、須恵器		
六反田遺跡 (8次)	集落跡	縄文～古代、近世		溝跡		土師器、須恵器		
鳥居塚古墳 (3次)	前方後円墳	古墳中期		周溝		土師器		後円部周溝
鳥居塚古墳 (4次)	前方後円墳	古墳中期		周溝		埴輪、縄文土器		後円部周溝
鳥居塚古墳 (5次)	前方後円墳	古墳中期		周溝		埴輪		後円部周溝
南小泉遺跡 (64次)	集落跡、屋敷跡	縄文～近世		溝跡		赤焼土器、ロクロ土師器、 非ロクロ土師器、土製品		
大野田官衙遺跡 (3次)	官衙跡	奈良～平安		溝跡、土坑		土師器		
大野田官衙遺跡 (4次)	官衙跡	奈良～平安		溝跡		なし		
大野田官衙遺跡 (5次)	官衙跡	奈良～平安		溝跡		なし		
大野田官衙遺跡 (6次)	官衙跡	奈良～平安		溝跡		なし		

要 約	六反田遺跡第6次調査では、竪穴住居跡1軒、溝跡6条、ピット2基を検出した。竪穴住居跡は、出土遺物から、9世紀後半には廃絶したものと考えられる。
	六反田遺跡第7次調査では、掘立柱建物跡1棟、土坑2基、溝跡13条、ピット15基を検出した。掘立柱建物跡の柱抜き穴からロクロ土師器などが出土した。また、同抜き穴から須恵器・平瓶が出土し、大野田官衙廃絶後の土地利用との関わりが推測される。
	六反田遺跡第8次調査では、溝跡5条を検出した。古代の畑耕作に関わる小溝状遺構と、性格不明の溝跡の2種類である。
	鳥居塚古墳第3～5次調査では、後円部周溝のうち、北東・北・北西部にあたる周溝を検出した。
	南小泉遺跡第64次調査では、溝跡2条、ピット1基を検出した。そのうち、SD2溝跡は、埋土が自然堆積と人為的埋土とに大別され、自然堆積層からは古墳時代中期南小泉式期に属すると考えられる土器、人為的埋土からはロクロ土師器や赤焼土器などが出土した。
	大野田官衙遺跡第3～6次調査では、溝跡、ピットなどを検出した。官衙に関わる遺構は検出されなかった。

仙台市文化財調査報告書第392集

仙台平野の遺跡群21

発掘調査報告書

2011年3月

発行 仙台市教育委員会

仙台市青葉区二日町1-1

文化財課 TEL 022 (214) 8894

印刷 遠山青葉印刷 株式会社

仙台市青葉区木町通二丁目5-24

TEL 022 (272) 7371

